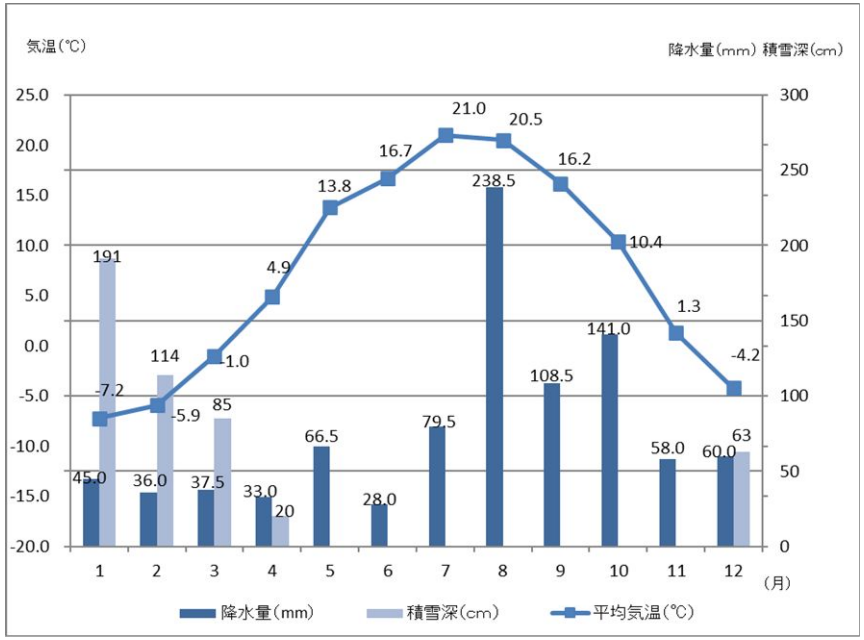
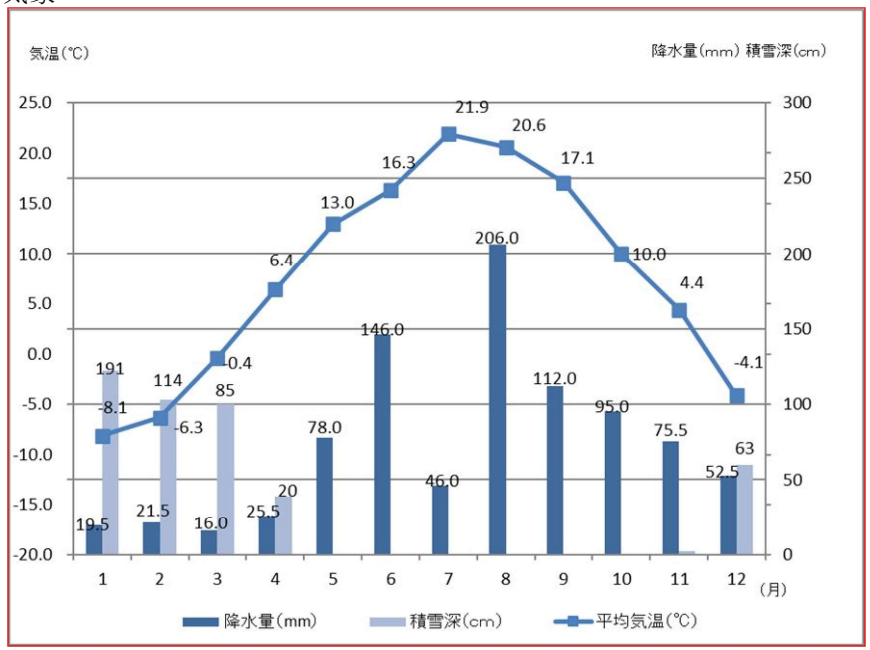
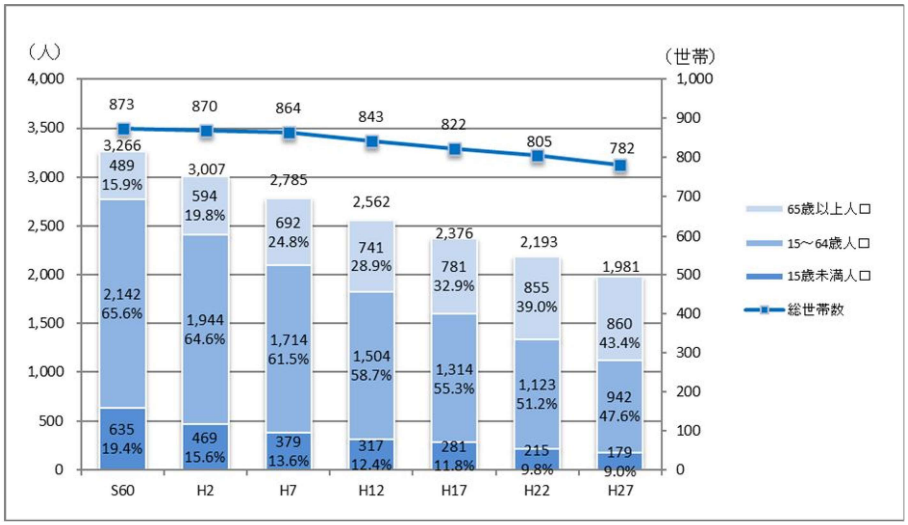
北竜町地域公共交通計画 新旧対照表

改定前	改定後
3P 第２章　既往資料による地域及び公共交通の概要 ２－１．地域及び公共交通の概要 （１）気象  資料：気象庁気象観測統計 2019年	3P 第２章　既往資料による地域及び公共交通の概要 ２－１．地域及び公共交通の概要 （１）気象  資料：気象庁気象観測統計 2022年（深川市）
4P （２）人口 ①人口・世帯数の推移 人口は平成27年が1,981人となっており、昭和60年の3,266人と比較すると30年間で４割が減少しています。また世帯数は平成27年が782世帯となっており、昭和60年の873世帯と比較すると30年間で１割が減少しています。 世代別比率は65歳以上の高齢者比率が平成27年で43.4％となっており、昭和60年の15.9％と比較すると30年間で27.5ポイントが増加しています。一方15歳未満の若	4P （２）人口 ①人口・世帯数の推移 人口は令和2年が1,724人となっており、昭和60年の3,266人と比較すると35年間で47.2％が減少しています。また世帯数は令和２年が737世帯となっており、昭和60年の873世帯と比較すると35年間で16％が減少しています。 世代別比率は65歳以上の高齢者比率が令和2年で45.0％となっており、昭和60年の15.9％と比較すると35年間で29.1ポイントが増加しています。一方15歳

年者比率は平成27年が9.0%となっており、昭和60年の19.4%と比較すると30年間で10.4ポイントが減少しています。

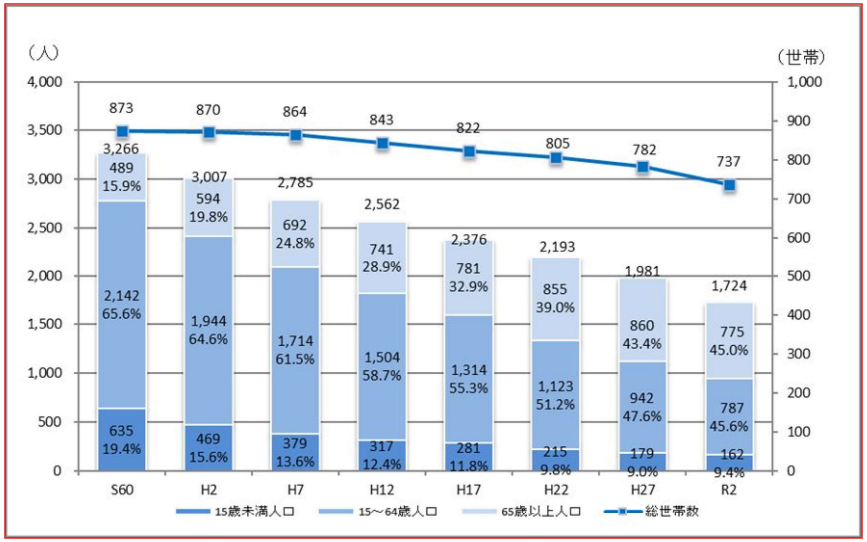


5p

②行政区別高齢者比率

行政区別の高齢者比率は「三谷」がランク６（50%～）と最も高く、続いて「美葉牛」「岩村」「碧水」「西川」及び「和」がランク５（40～50%）となっています。

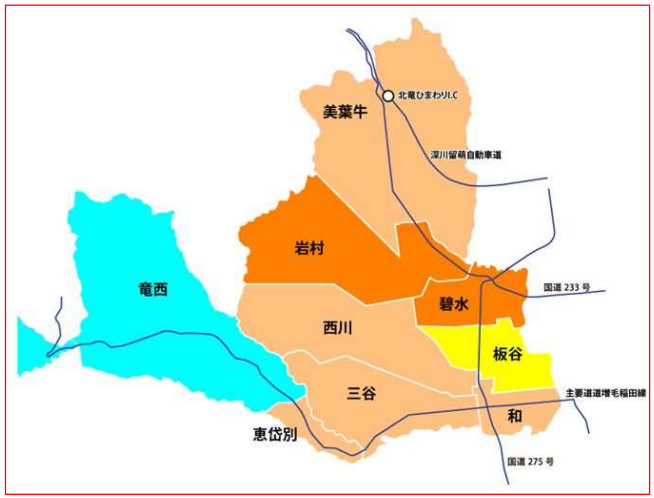
未満の若年者比率は令和2年が9.4%となっており、昭和60年の19.4%と比較すると35年間で10.0ポイントが減少しています。



5P

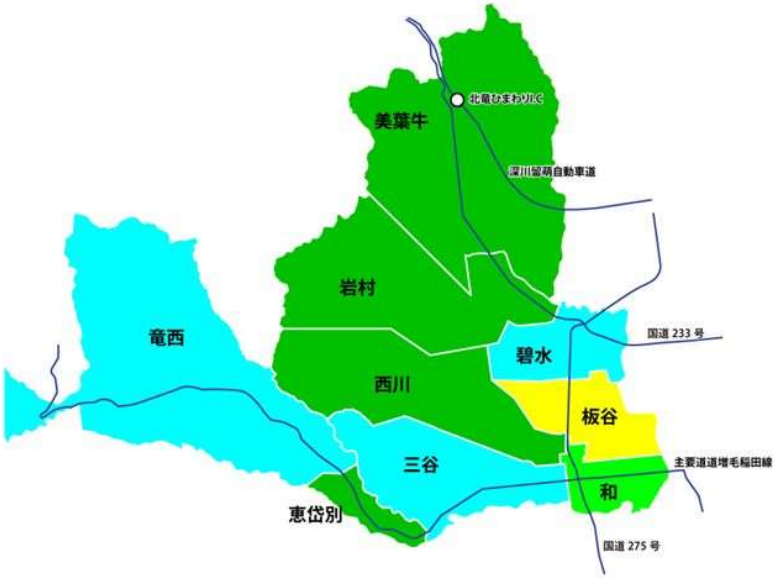
②行政区別高齢者比率

行政区別の高齢者比率は「碧水」「岩村」がランク6（50%～）と最も高く、続いて「美葉牛」「西川」「三谷」「恵岱別」及び「和」がランク5（40～50%）となっています。



③行政区別若年者比率

行政区別の若年者比率は「板谷」がランク４（15～20%）と最も高く、続いて「和」がランク３（10～15%）となっています。



6P

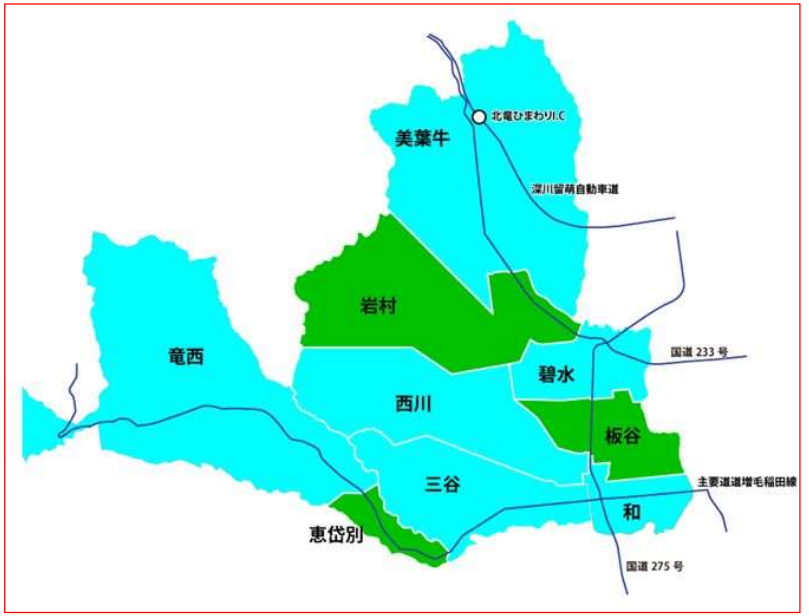
④従業地・通学地の状況

1）従業地

北竜町在住者は深川市への通勤が多く、深川市在住者についても同数程度が通勤している。その他滝川市在住者からの通勤が多い状況となっています。

③行政区別若年者比率

行政区別の若年者比率は「板谷」「岩村」及び「恵岱別」がランク2（5～10%）と最も高く、その他の地区はランク1（0～5%）となっています。



6P

④従業地・通学地の状況

1）従業地

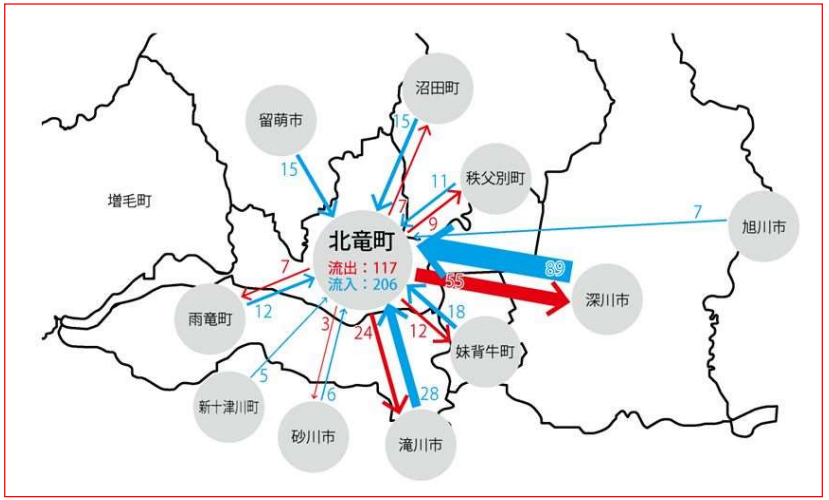
北竜町在住者は深川市への通勤が多く、深川市在住者についても同数程度が通勤している。続いて滝川市への通勤が多く、滝川市在住者からの通勤も多い状況となっています。

資料：平成27年国勢調査

2)通学地

北竜町の15歳以上の通学者は、深川市が39人と最も多く、他は滝川市への通学が17人となっています。

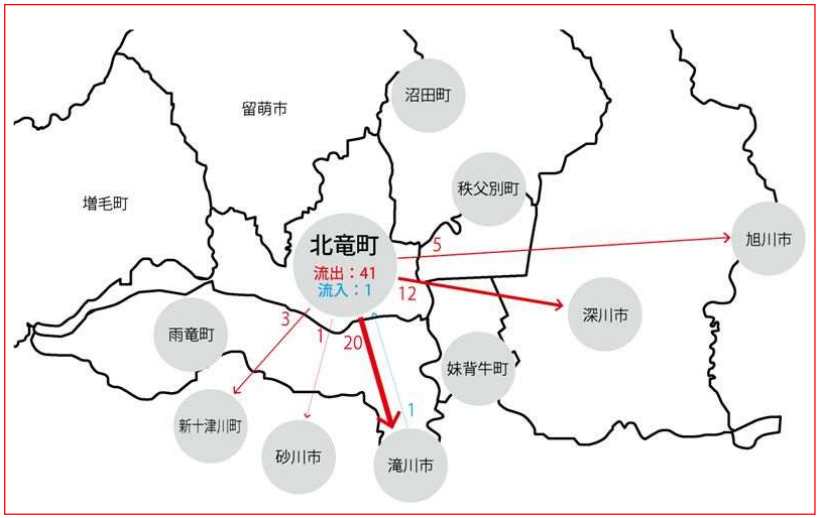
資料：平成27年国勢調査



資料：令和2年国勢調査

2)通学地

北竜町の15歳以上の通学者は、滝川市が20人と最も多く、他は深川市への通学が12人となっています。



資料：令和2年国勢調査

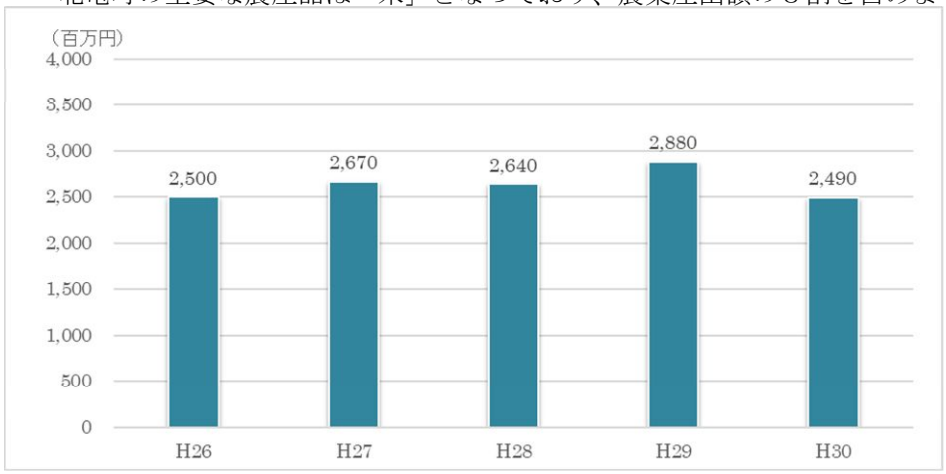
8P

（３）産業

①農業

農業産出額は概ね2,500百万円から2,900百万円で推移しています。

北竜町の主要な農産品は「米」となっており、農業産出額の８割を占めます。



11P

（６）公共交通等の状況

①民間路線バスの路線

民間路線バスは、北竜町を南北に貫く国道275号を滝川北竜線が運行し、滝川市にアクセスしますが、令和４年３月に運転手不足と輸送人数の減少により、廃止となる予定であります。

（深川）北竜線は主要道道増毛稲田線等を運行し、深川市にアクセスするバス路線となっている。また、国道233号には留萌旭川線が運行し、深川市と旭川市にアクセスします。

その他広域的には雨竜町に深滝線が運行し、滝川市と深川市にアクセスすることが可能であります。

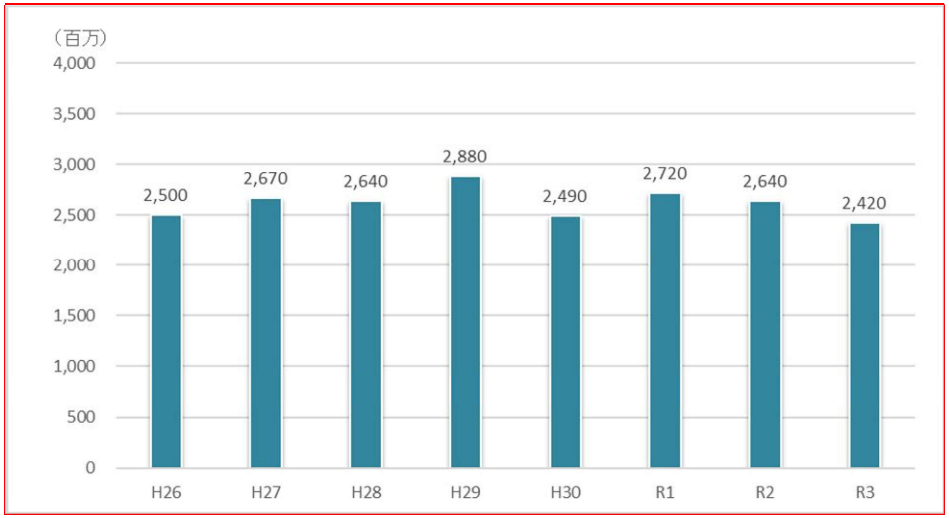
8P

（３）産業

①農業

農業産出額は概ね2,400百万円から2,900百万円で推移しています。

北竜町の主要な農産品は「米」となっており、農業産出額の8割を占めます。



11P

（６）公共交通等の状況

①民間路線バスの路線

民間路線バスは、国道275号等を運行する滝川北竜線が滝川市へアクセスしていましたが、運転手不足と輸送人数の減少により令和4年3月に廃止となりました。また主要道道増毛稲田線を運行する（深川）北竜線は深川市へアクセスしますが、令和6年3月に同様の理由により廃止となる予定です。その他国道233号を運行する留萌旭川線は、留萌市及び深川市・旭川市にアクセスしています。

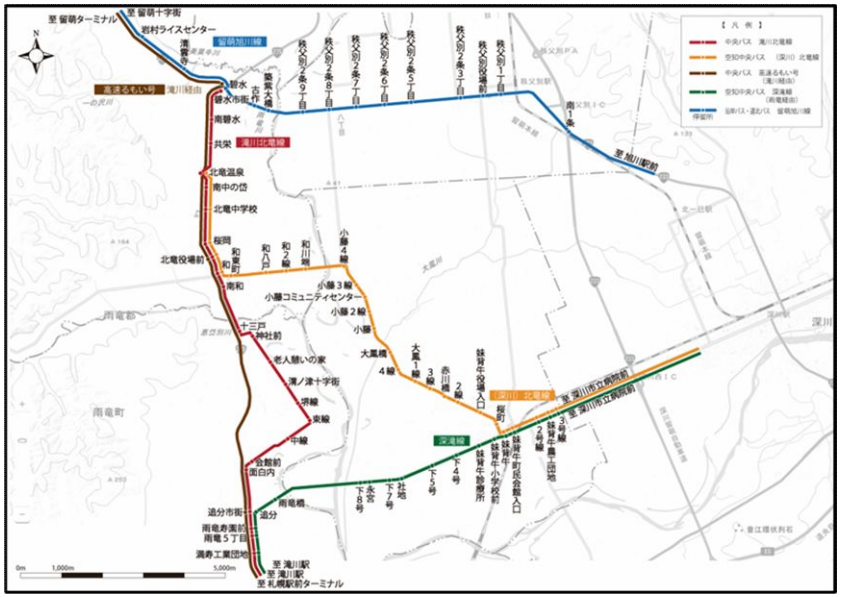


図　民間路線バス網図（広域）　　資料：北海道中央バスホームページ

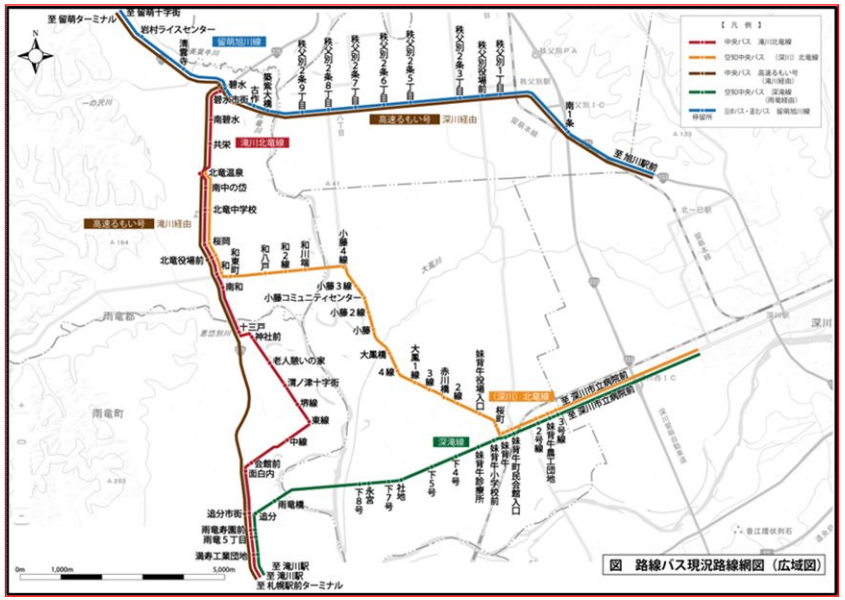


図　民間路線バス網図（広域）　　資料：各バス会社ホームページ

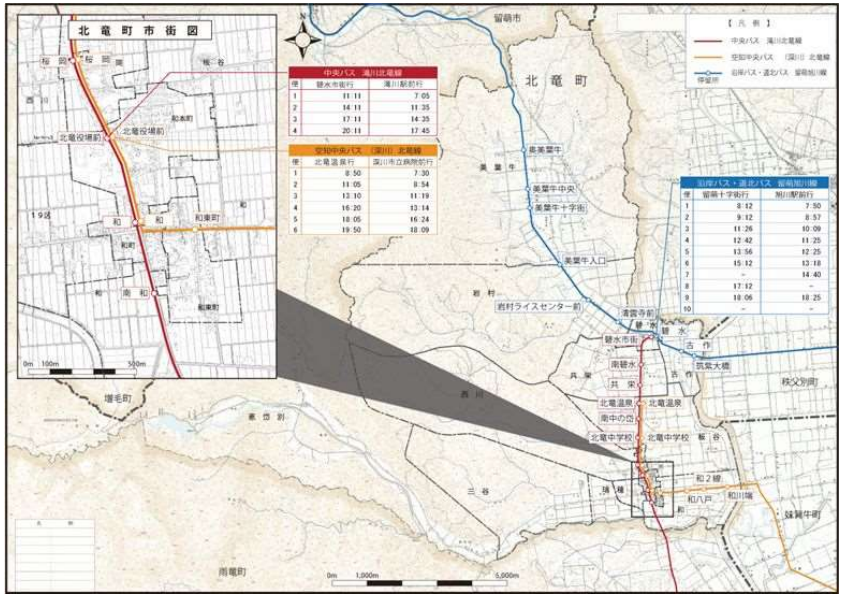


図　民間路線バス網図　　資料：北海道中央バスホームページ

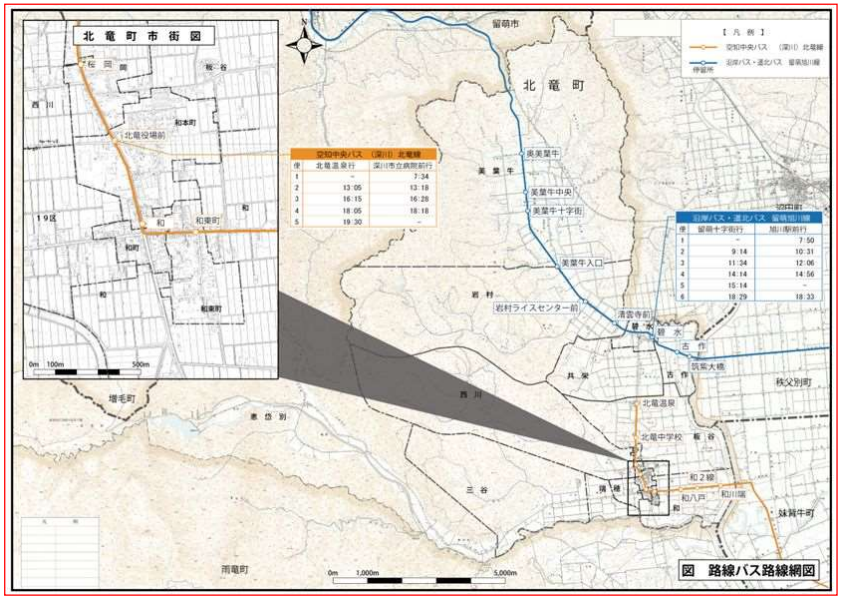
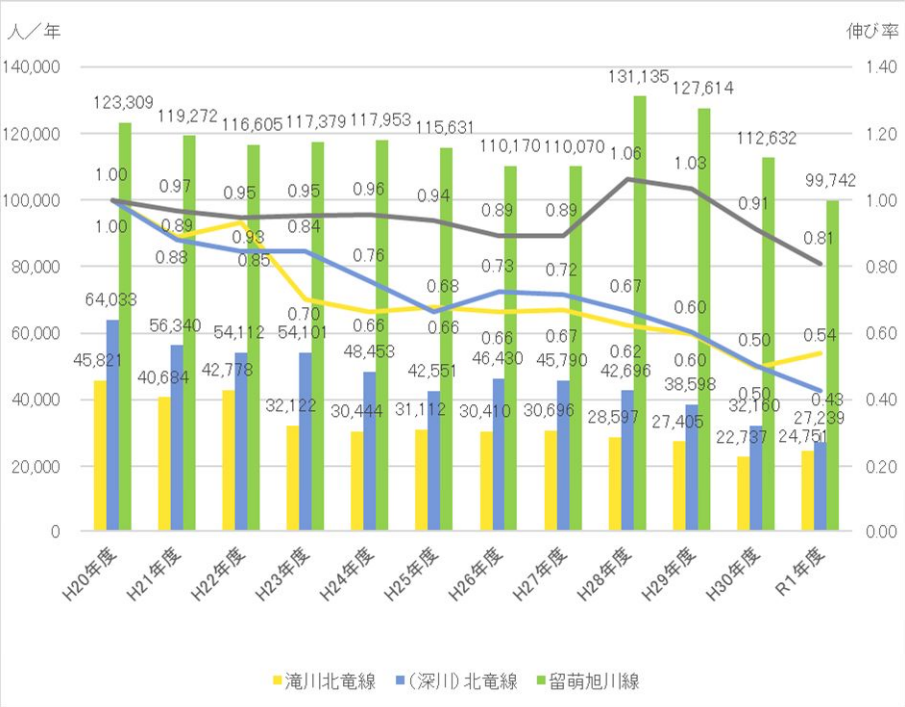


図　民間路線バス網図　　資料：各バス会社ホームページ

12P

②民間バス路線の輸送人数

滝川北竜線と（深川）北竜線の輸送人数は、令和元年度が24,751人と27,239人となっており、平成20年度と比較するとそれぞれ46ポイント、57ポイントが減少しています。留萌旭川線は平成28年度に持ち返したが再び減少傾向を示し、令和元年度は99,742人となっており、平成20年度と比較すると19ポイントが減少しています。



12P

②民間バス路線の輸送人数

（深川）北竜線の輸送人数は令和4年度が20,231人と、近年微増しているが、平成20年度と比較すると68ポイント減少となっています。留萌旭川線は平成20年度と比較すると令和4年度は59ポイント減少となっています。その他、深川市・妹背牛町・雨竜町・滝川市間を運行する深川滝川線は、平成22年度が約24万人と大きく増加しましたが、令和4年度では減少し、平成20年度比で22ポイント減少となっています。

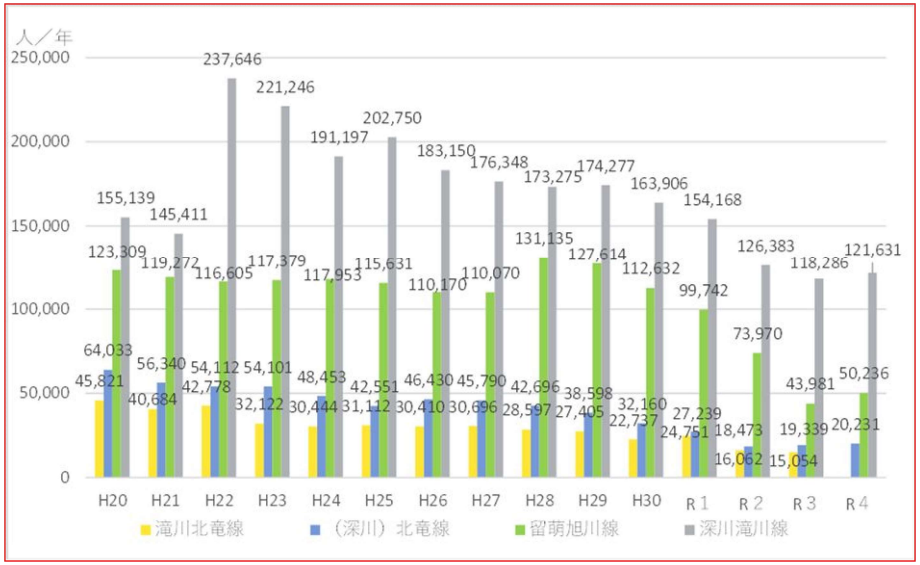


図　民間路線バス輸送人数等の推移

資料：北海道中央バス(株)、空知中央バス(株)、沿岸バス(株)・道北バス(株)

13P

③町営バス

　町営バス北竜追分線は、碧水・追分市街地間において北海道中央バス滝川北竜線の代替交通として令和4年4月から運行を開始しました。運行当初の5月から7月においては、一月当たり300人弱の利用がありましたが、乗継による不便さが敬遠され1月以降は100人台で推移し、令和4年度の輸送人数は2,598人となっています。

　乗車人数当たりの便数を見ると、平日においては高校の登下校とは逆方向の運行をする便において、ほとんどが空車の状況となっています。

土曜・日曜祝日は第1便が1～5人の乗車が6割以上ですが、第5便と第6便は往路のほとんどが空車、復路においては6割以上が空車となっています。

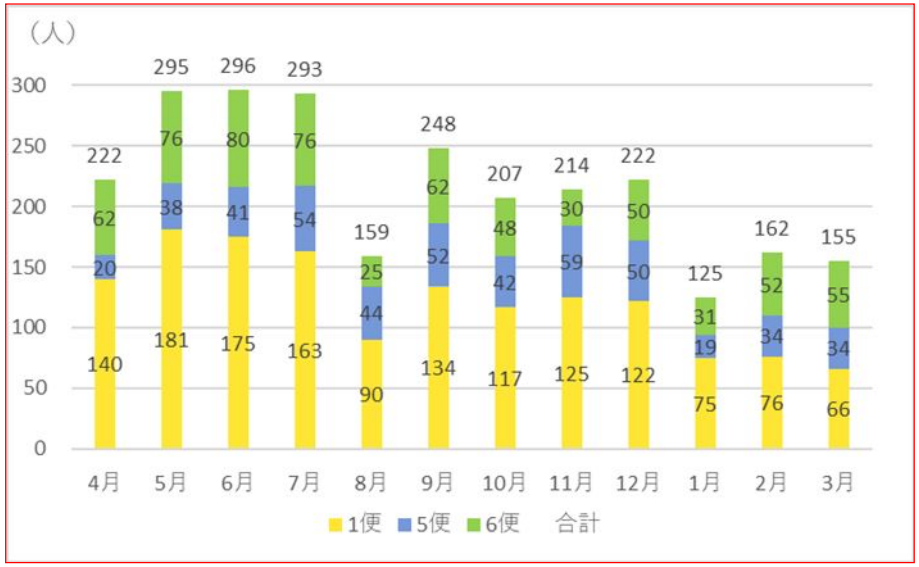


図　月別便別輸送人数の推移

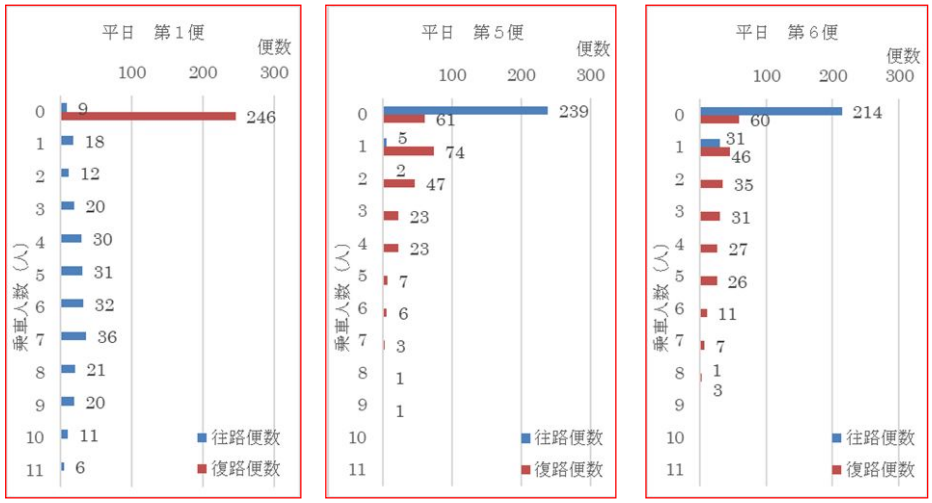


図　便当り輸送人数別運行便数（平日）

14P

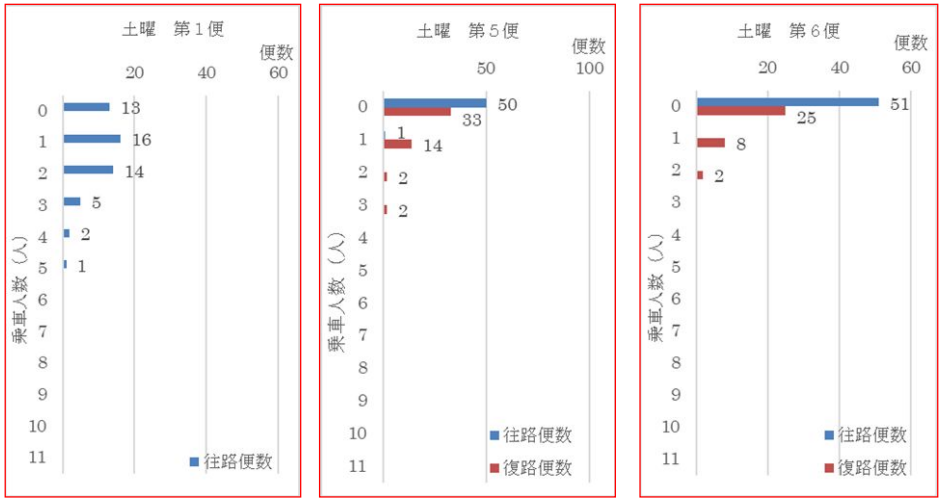


図　便当り輸送人数別運行便数（土曜日）

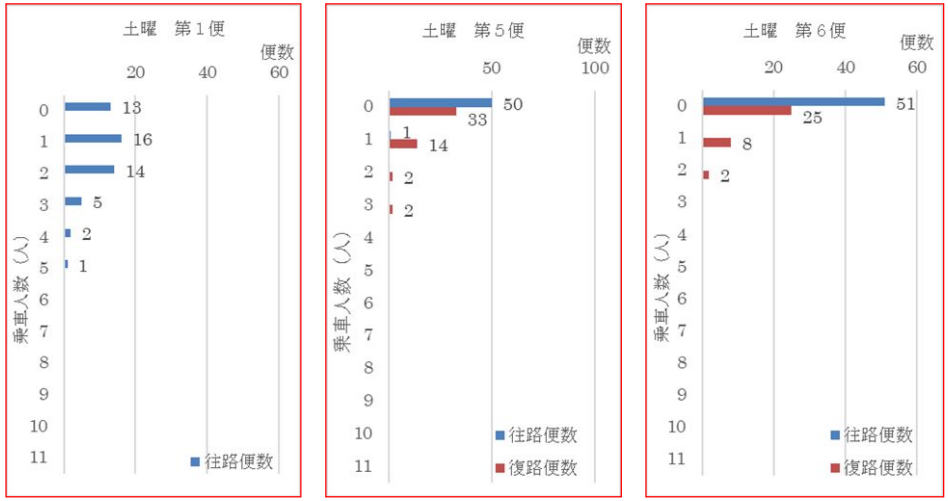


図　便当り輸送人数別運行便数（日曜・祝日）

15P

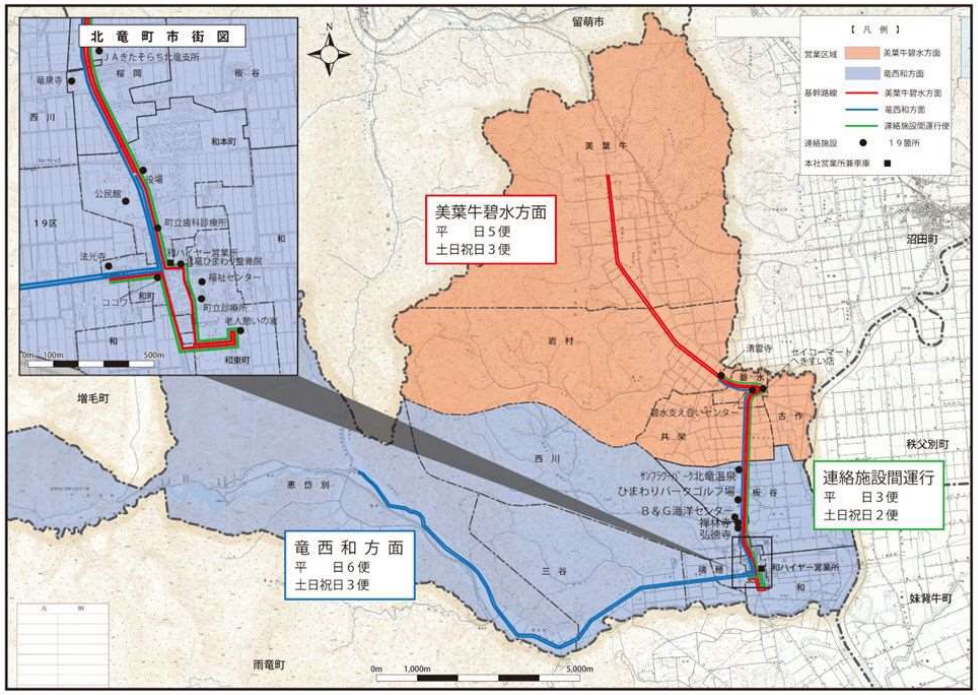
図　町営バス北竜追分線バス路線図

13P

③乗合タクシー

乗合タクシーは和ハイヤーがハイヤー車両を用い、利用登録者の自宅前と市街地中心部等で設定された連絡施設19箇所との間を輸送するもので、美葉牛碧水方面、竜西和方面の２方面で運行しています。平日の運行便数は５、６便、土日祝日は３便となっています。

輸送人数は平成27年度に運行を開始して平成30年度まで増加したが、頭打ちとなり令和元年度は減少し、1,884人となっています。

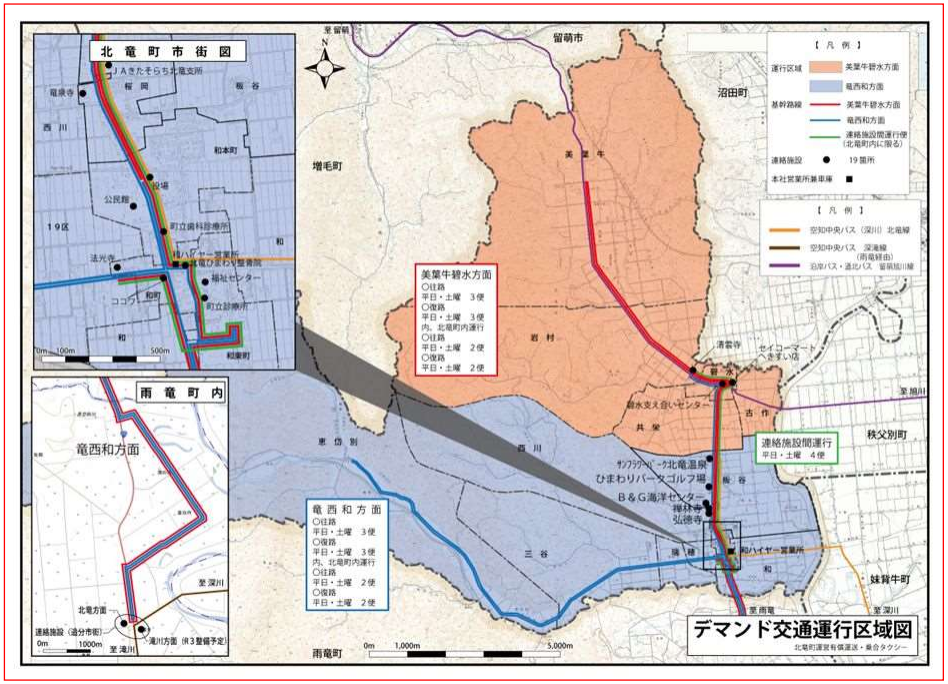


16P

④乗合タクシー

乗合タクシーは、和ハイヤー(有)がハイヤー車両を用い利用登録者の自宅前と市街地中心部等に設定している連絡施設18箇所との間を輸送するもので、「美葉牛碧水方面」と「竜西和方面」の2方面と「連絡施設間運行便」の運行を行っています。2方面の運行便数は平日が3便、土曜日が2便となっており、うち雨竜町追分市街にアクセス可能な便は1便となっています。「連絡施設間運行便」は4便が運行しています。

輸送人数は、令和3年度から令和4年度で減少していますが、通年で運行を開始した平成27年度と比較し、令和4年度は3倍弱の2,734人となっています。



14P

④スクールバス

1) スクールバス路線・輸送人数

スクールバスは小学生と中学生の児童生徒の登下校だけではなく、北竜町運営有償運送により住民の輸送を行っています。バス路線は美葉牛線、碧水線及び竜西線の３路線となっていますが、少子化の影響によりバスに空席が目立つようになってきています。

一般の輸送人数は減少しつつも令和元年度で2,674人となっており、乗合タクシーの輸送人数の1.4倍となっています。

17P

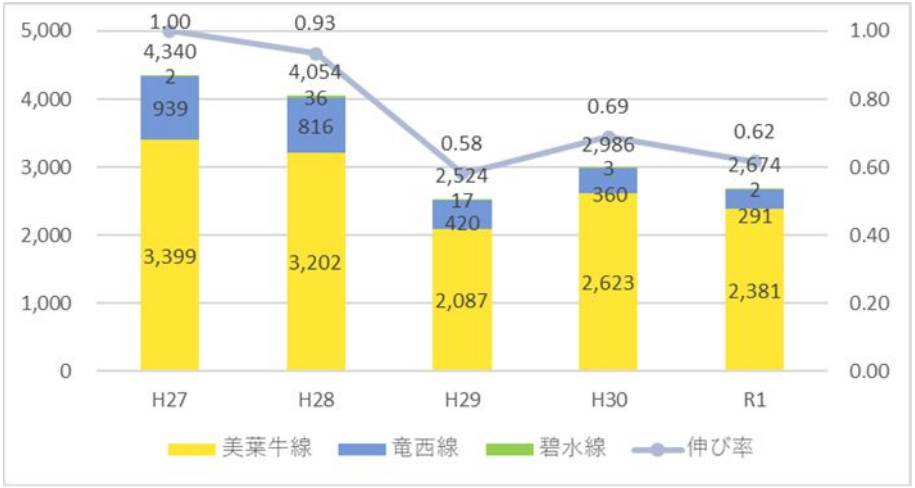
⑤スクールバス

1) スクールバス路線・輸送人数

スクールバスは小学生と中学生の児童生徒の登下校だけではなく、北竜町運営有償運送により住民の輸送を行っています。バス路線は美葉牛線、碧水線及び竜西線の3路線となっていますが、少子化の影響によりバスに空席が目立つようになってきています。

一般の輸送人数は減少しつつも令和4年度では2,085人が乗車しています。

図　スクールバス路線網図　　資料：北竜町（令和２年４月現在）



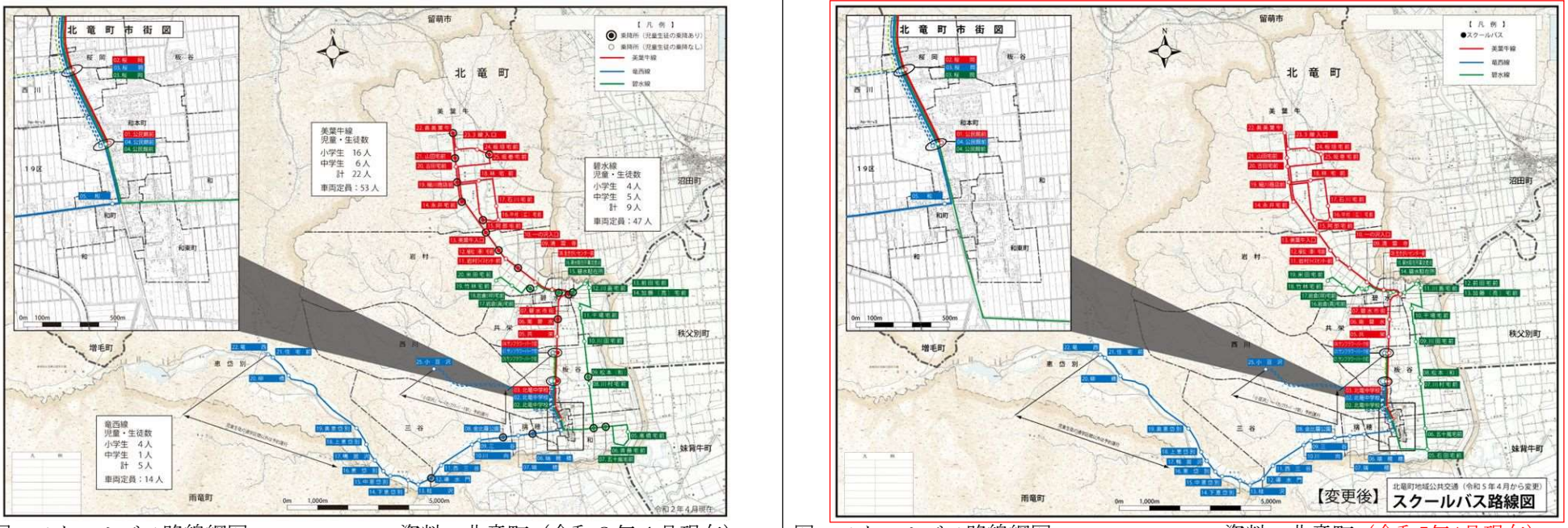
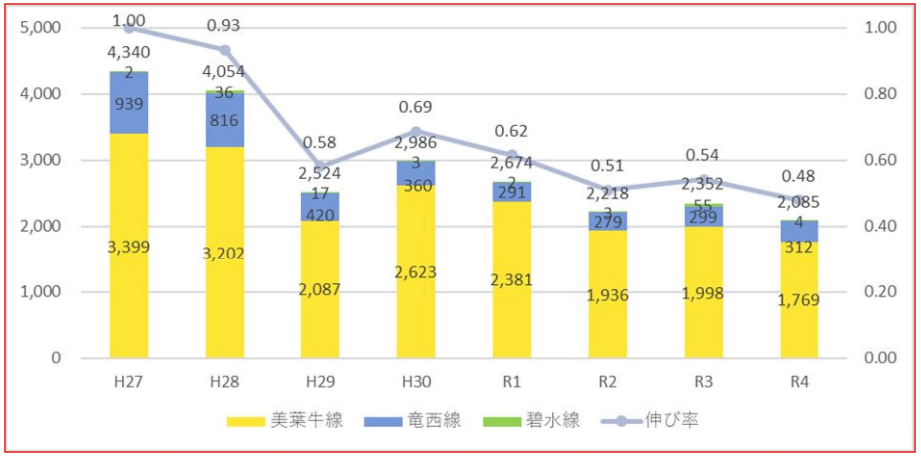


図　スクールバス路線網図　　資料：北竜町（令和5年4月現在）



15P

2)スクールバス１便当たり輸送人数（一般）

16ｐ

⑤公共交通の収支状況

（深川）北竜線の経常収益率0.52に対し、滝川北竜線の経常収益率は0.27、乗合タクシーが0.08となっています。

また、北竜町単独費の内訳は滝川北竜線が75%と最も多く、続いて乗合タクシーが18%となっています。

表　公共交通の収支状況

区分	路線名	支出	収入					
		経常費用	経常収益	国・道補助金等	市町村補助金等	内、北竜町	事業者負担	収入計
地域間幹線系等	北海道中央バス(株)滝川北竜線	26,619	7,149		19,470	8,983		26,619
		1.00	0.27		0.73	0.34		1.00
	空知中央バス(株)（深川）北竜線	20,263	10,461	3,711	3,388	874	2,703	20,263
		1.00	0.52	0.18	0.17	0.04	0.13	1.00
	計	46,882	17,610	3,711	22,858	9,857	2,703	46,882
		1.00	0.38	0.08	0.49	0.21	0.06	1.00
地域内フィーダー系統等	和ハイヤー(有)乗合タクシー	4,802	363	2,290	2,149	2,149		4,802
		1.00	0.08	0.48	0.45	0.45		1.00
	スクールバス一般利用	12,262	267	17,529	-5,534	-5,534		12,262
		1.00	0.02	1.43	-0.45	-0.45		1.00
	計	17,064	630	19,819	-3,385	-3,385		17,064
		1.00	0.04	1.16	-0.20	-0.20		1.00
合計		63,946	18,240	23,530	19,473	6,472	2,703	63,946
		1.00	0.29	0.37	0.30	0.10	0.04	1.00

令和元年値・各バス会社、ハイヤー会社からの提供データ
上段は金額、下段は経常費用に対する比率

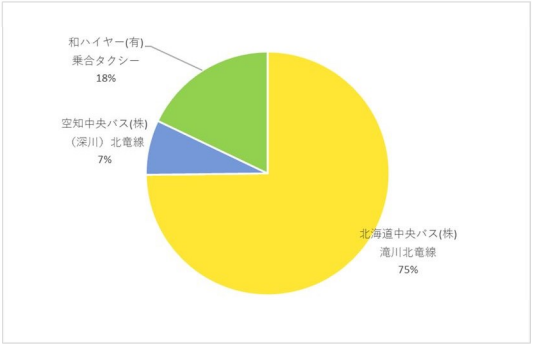


図　北竜町単独費に占める各種公共交通の割合

削除

18P

⑥公共交通の収支状況

地域間幹線系統及び広域生活交通路線は、収益率が0.26から0.43となっているものの、深滝線については事業者負担額が約23,000千円となっている。

地域内フィーダー系統など町内の輸送が主な路線は、収益率が0.02から0.09となっているものの、スクールバス普通交付税額が手厚いため、地域間幹線系統を含めた北竜町補助金を上回る収入となっており、地域公共交通全体としては収支状況は健全であります。

表　公共交通の収支現況

区分	路線名	支出	収入					
		経常費用	経常収益	国・道補助金等	市町村補助金等	内、北竜町	事業者負担	収入計
地域間幹線系	沿岸バス(株)留萌旭川線	124,567	46,654	41,917	0	0	35,996	124,567
		1.00	0.37	0.34	0.00	0.00	0.29	1.00
広域生活交通路線	空知中央バス(株)（深川）北竜線	18,153	4,672	1,724	9,398	2,502	2,359	18,153
		1.00	0.26	0.09	0.52	0.14	0.13	1.00
地域間幹線系	空知中央バス(株)深川滝川線	75,984	32,834	19,846	633	0	22,671	75,984
		1.00	0.43	0.26	0.01	0.00	0.30	1.00
計（地域間幹線系統・広域生活交通路線）		218,704	84,160	63,487	10,031	2,502	61,026	218,704
		1.00	0.38	0.29	0.05	0.01	0.28	1.00
地域内フィーダー系統	和ハイヤー(有)乗合タクシー	6,059	527	2,674	2,271	2,271	587	6,059
		1.00	0.09	0.44	0.37	0.37	0.10	1.00
	町営バス北竜追分線	5,876	399	1,132	4,345	3,882	0	5,876
		1.00	0.07	0.19	0.74	0.66	0.00	1.00
その他	スクールバス一般利用	11,791	187	19,095	-10,182	-10,182	0	9,100
		1.00	0.02	1.62	-0.86	-0.86	0.00	0.77
計（地域内フィーダー系統・その他）		17,850	714	21,769	-7,911	-7,911	587	15,159
		1.00	0.04	1.22	-0.44	-0.44	0.03	0.85
合計		236,554	84,874	85,256	2,120	-5,409	61,613	233,863
		1.00	0.36	0.36	0.01	-0.02	0.26	0.99

令和４年度：各バス会社、ハイヤー会社からの提供データ
上段は金額（千円）、下段は経常費用に対する比率
スクールバス国・道補助金は普通交付税額で、基準財政決定額に対する普通交付税決定額の割合により低減した額

削除

17P

⑧北竜町福祉有償運送

北竜町の住民の福祉の向上、または交通空白地域の解消を図り、公共の福祉の増進を図るため、北竜町による福祉有償運送を行っています。

令和２年４月現在、町内の在住の５名を対象に深川市と滝川市の病院への通院で輸送を行っている。

⑨サンフラワーパーク北竜温泉送迎バス（無料）

(株)北竜町振興公社では、夜の時間帯においてサンフラワーパーク北竜温泉の無料送迎を行っています。

運行概要は以下のとおりとなっています。

21P

第３章　地域公共交通実態調査

３－１．住民アンケート調査の概要

（２）アンケート調査の概要

アンケート調査は、一般アンケート調査と高校生アンケート調査を実施します。

質問の概要は以下のとおりです。

表　アンケート調査の質問の概要

種別	質問の概要
一般アンケート調査	・個人属性（お住まい、世帯人数、性別、年齢、学生と社会人の区分） ・自家用車の状況（利用状況、運転状況など） ・公共交通の利用状況（滝川北竜線、（深川）北竜線、最寄りのバス停） ・交通実態（時間帯、目的、交通手段、行先） ・代替交通手段、新たな輸送方法 ・自由記述
高校生アンケート調査	・個人属性（お住まい、高校生の人数、性別、学年、学校名、交通手段） ・利用している運行便（登下校、部活時）

19P

⑧北竜町福祉有償運送

北竜町の住民の福祉の向上、または交通空白地域の解消を図り、公共の福祉の増進を図るため、北竜町による福祉有償運送を行っています。

令和４年度は、町内の在住の17名を対象に深川市と滝川市の病院への通院で、計94人の輸送を行っています。

⑨サンフラワーパーク北竜温泉送迎バス（無料）

(株)北竜町振興公社では、夜の時間帯においてサンフラワーパーク北竜温泉の無料送迎を行っています。

運行概要は以下のとおりとなっていますが、令和4年度からスクールバスの運行に従事している運転手を加えるかたちで、スクールバス運行業務に従事しています。

23P

第３章　地域公共交通実態調査

３－１．住民アンケート調査の概要

（２）調査の概要

アンケート調査は、一般アンケート調査と中学生・高校生アンケート調査を実施します。

質問の概要は以下のとおりです。

表　アンケート調査の質問の概要

種別	質問の概要
一般アンケート調査	・個人属性（お住まい、世帯人数、性別、年齢、学生と社会人の区分） ・自家用車の状況（利用状況、運転状況など） ・公共交通の利用状況（滝川北竜線、（深川）北竜線、最寄りのバス停） ・交通実態（時間帯、目的、交通手段、行先） ・代替交通手段、新たな輸送方法 ・自由記述
中学生・高校生アンケート調査	・個人属性（お住まい、高校生の人数、性別、学年、学校名、交通手段） ・利用している運行便（登下校、部活時）

	・最寄りのバス停 ・滝川北竜線、（深川）北竜線が運休した場合の利用交通手段 ・自由記述

（３）アンケートの配付・回収方法

アンケートの配付・回収方法は、以下のとおりです。

表　配付・回収方法

種別	配付方法	回収方法
一般アンケート調査	日本郵便(株)の配達地域指定郵便物（タウンメール）による発送 （事業所を含め全戸配布）	郵送による回収
高校生アンケート調査	郵送による回収 （高校生がいる世帯すべてに配付）	

22p

（４）配付・回収のスケジュール

アンケートの配付・回収スケジュールは、以下のとおりです。

表　配付・回収スケジュール

種別	配付日	回収期日
一般アンケート調査	25 日（火）～29 日（日）	令和２年３月 15 日（日）
高校生アンケート調査	29 日（日）	

（５）アンケート調査の配付・回収数

各アンケートの配付・回収の状況は、以下のとおりです。

	・最寄りのバス停 ・滝川北竜線、（深川）北竜線が運休した場合の利用交通手段 ・自由記述

24P

（３）配付・回収方法

アンケートの配付・回収方法は、以下のとおりです。

表　配付・回収方法

種別	配付方法	回収方法
一般アンケート調査	日本郵便(株)の配達地域指定郵便物（タウンメール）による発送 （事業所を含め全戸配布）	郵送による回収
中学生・高校生アンケート調査	【高校生】 ・郵送による発送 （高校１、２年生がいる世帯すべてに配付）	
	【中学生】 ・全生徒を対象に学校を通して配布	学校を通して回収

（４）配付・回収のスケジュール

アンケートの配付・回収スケジュールは、以下のとおりです。

表　配付・回収スケジュール

種別	配付日	回収期日
一般アンケート調査	令和２年２月 25 日（火）～29 日（日）	令和２年３月５日（日）
中学生・高校生アンケート調査	令和５年３月１日（水）	令和５年３月 10 日（金）

（５）配付・回収数

各アンケートの配付・回収の状況は、以下のとおりです。

表　配付・回収数

種別	配付数	回収数（回収率）
一般アンケート調査	747 件	360 件（48.2%）
高校生アンケート調査	35 件	24 件（68.6%）

24P

②高校生アンケート調査

１．個人属性 ・お住まいの地域は、「和」が３割弱と最も多い ・高校生の人数は、全世帯とも「１人」 ・性別は「女性」が７割弱 ・学年は「１年生」が５割弱、「２年生」が４割弱 ・高校は「深川西高校」が４割強と最も多く、続いて「滝川高校」、「滝川西高校」の順 ・回答数 24 件の内「町外からの通学」が３件となっているため、この３件の回答は除外
２．通学の状況 ・通学の交通手段は「中央バス滝川北竜線」が５割弱、「空知中央バス（深川）北竜線」が４割強 ・通学は７時台の運行便、部活なしは 16 時台・17 時台、部活後は 20 時前後、土日の部活等の下校は 14 時台と 17 時台 ・自宅から最寄りのバス停留所までの交通手段は、「徒歩」が７割強、「3．家族の車」が１割強
３．中央バス滝川北竜線と空知中央バス（深川）北竜線が長期間運休する場合の交通手段 ・「深滝線の停留所（追分）にアクセス」が３割弱と最も多い

表　配付・回収数

種別	配付数	回収数（回収率）
一般アンケート調査	747 世帯	360 世帯（48.2%）
中学生・高校生 アンケート調査	高校生　24 世帯 中学生　35 人	15 世帯（62.5%） 22 人（62.9%）

26P

②中・高校生アンケート調査

・居住地域は、「和」が２割強と最も多い
・各世帯の中学生・高校生の人数は、１世帯を除き「１人」
・性別は、「女性」が６割、「男性」が４割
・中学生の学年は、「1 年生」が４割と最も多い
・高校生の学年は、「1 年生」「2 年生」とも５割弱
・中学生が志望する高校は、「深川西高校」が５割と最も多い
・高校生が通学する学校は、「深川西高校」が５割弱と最も多い
・中学生は、２割弱が自宅からの通学を考えていない
・中学生は、４割強がクラブ・サークルへの所属を希望
・高校生は、７割強がクラブ・サークルへ所属
・クラブ・サークルへ所属している高校生の帰宅時間帯は、「19 時台」が７割

【利用交通手段】
・中学生が滝川市内の高校に通学する場合は、「北竜追分線」が５割強
・同様に深川市内の高校に通学する場合は、「（深川）北竜線」が８割弱
・高校生が滝川市内の高校に通学する場合は、「北竜追分線」が７割強
・同様に深川市内の高校に通学する場合は、「（深川）北竜線」が９割弱
・同様にその他地域の高校に通学する場合、「留萌旭川線」が５割

【自宅とバス停間の交通手段】
・夏期、冬期とも「徒歩」がそれぞれ７割強、８割と最も多い
・仮に「（深川）北竜線」が取りやめになる場合の代替交通手段は、「1．北竜追分線」が４割強と最も多い

【自由意見】
・中学生が６件、高校生が７件の自由意見があった

64P

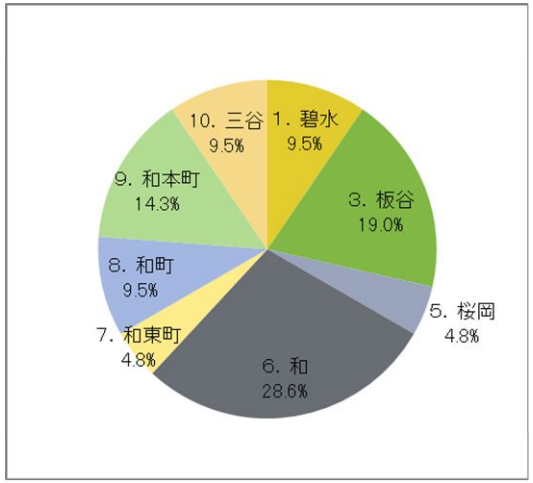
（８）高校生アンケート調査

Ｑ１　お住まいの「地域」をお答えください。（一つに○）

居住地域は、「6．和」が３割弱と最も多く、続いて「3．板谷」が２割弱、「9．和本町」が１割強となっています。

図表　居住地域

回答項目	回答者数
１．碧水	2
２．美葉牛	0
３．板谷	4
４．西川	0
５．桜岡	1
６．和	6
７．和東町	1
８．和町	2
９．和本町	3
10．三谷	2
合計	21



Ｑ２　高校生の「人数」をお答えください。（一つに○）

高校生の人数は、全世帯において「1．１人」となっています。

図表　人数

回答項目	回答数
１．１人	21
２．２人	0
３．３人	0
合計	21

67P

（８）中学生・高校生アンケート調査結果

Ｑ１　お住まいの「地域」をお答えください。（一つに○）

中学生・高校生の居住地は、「6．和」が2割強と最も多く、続いて「7．和東町」が2割弱、「1．碧水」と「2．美葉牛」が1割強の順となっています。

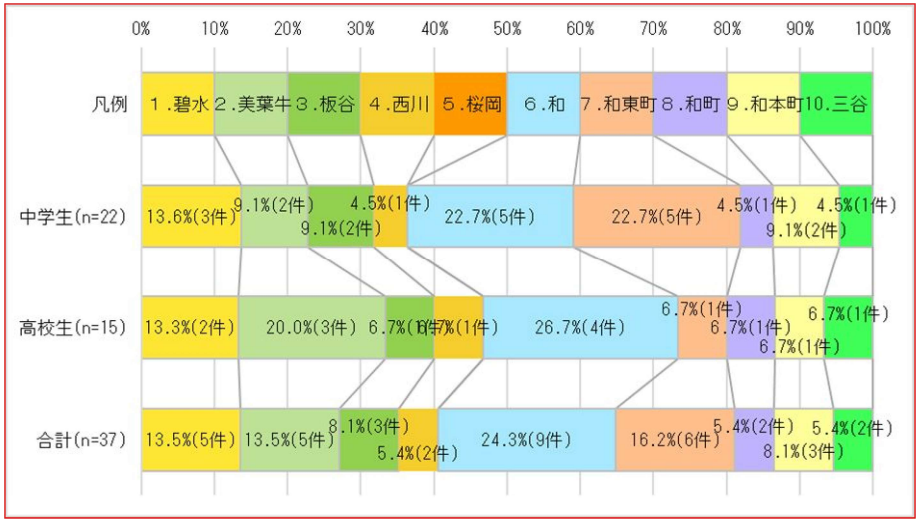


図　居住地域

Ｑ２　「人数」をお答えください。（一つに○）

各世帯の中学生・高校生の人数は、中学生の1世帯を除きすべて「1人」となっています。

図　人数

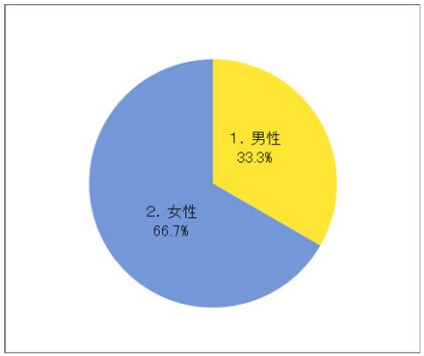
65P

Ｑ３　性別をお答えください。（それぞれ一つに○）

性別は「2. 女性」が７割弱となっており、「1. 男性」の３割強を大きく上回っています。

図表　性別

回答項目	回答者数
１．男性	7
２．女性	14
合計	21

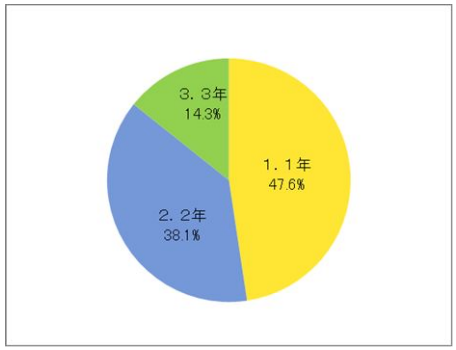


Ｑ４　学年をお答えください。（それぞれ一つに○）

学年は「1. １年生」が５割弱と最も多く、続いて「2. ２年生」が４割弱、「3. ３年生」が１割強の順となっています。

図表　学年

回答項目	回答者数
１．１年	10
２．２年	8
３．３年	3
合計	21



68P

Ｑ３　性別をお答えください。（それぞれ一つに○）

中学生・高校生の性別は、「男性」が4割、「女性」が6割となっています。

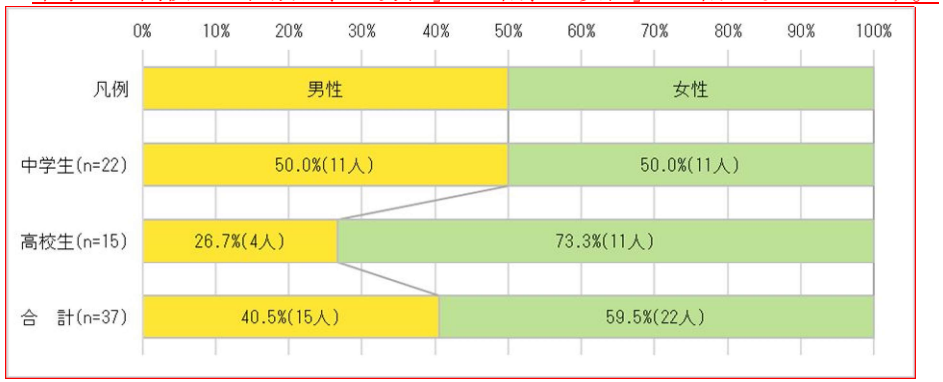


図　性別

Ｑ４　学年をお答えください。（それぞれ一つに○）

中学生の学年は、「1年生」が4割と最も多く、続いて「3年生」が3割強、「2年生」が3割弱の順となっています。

高校生の学年は、「1年生」「2年生」とも5割弱となっています（「3年生は調査対象外」）。

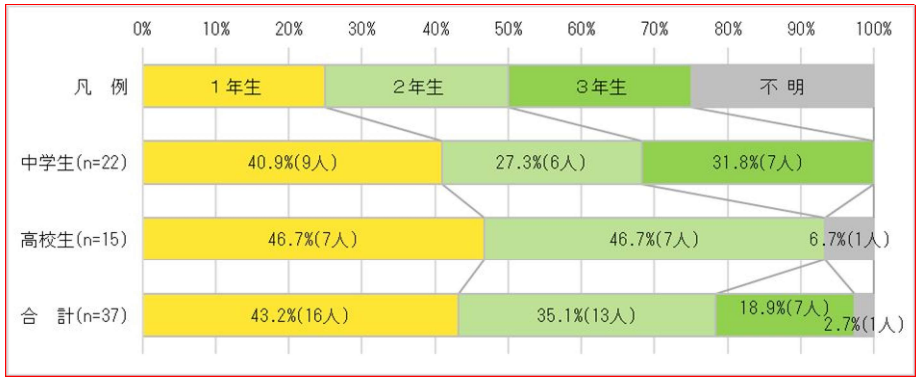


図　学年

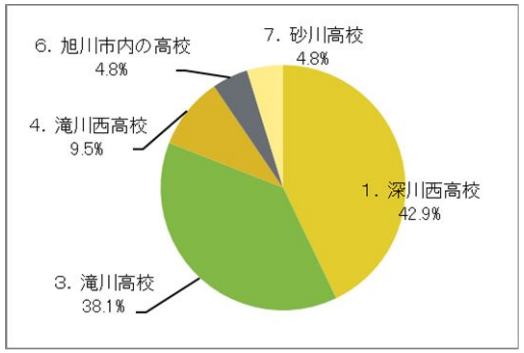
66P

Ｑ５　学校名をお答えください。（選択肢から番号を一つ選んで記載）

通学している学校は「1．深川西高校」が４割強と最も多く、続いて「3．滝川高校」が４割弱、「4．滝川西高校」が１割となっています。滝川市と深川市の通学数としては、滝川が10人に対して深川が９人と概ね同数となっています。

図表　通学している高校

回答項目	回答者数
１．深川西高校	9
２．深川東高校	0
３．滝川高校	8
４．滝川西高校	2
５．滝川工業高校	0
６．旭川市内の高校	1
７．砂川高校	1
合計	21

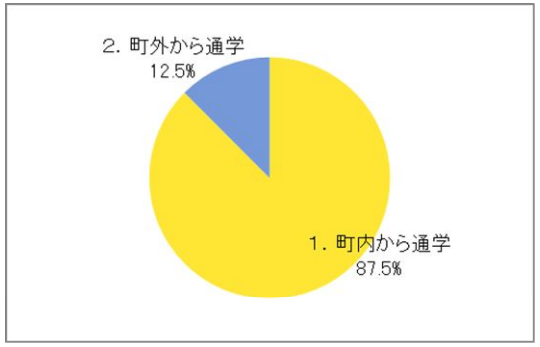


Ｑ６　北竜町内のご自宅から通学していますか。（それぞれ一つに○）

北竜町内からの通学の有無については、回答数24件の内「2．町外からの通学」が３件となっているため、この３件を除いた数値により集計・分析を行っています。

図表　北竜町内からの通学の有無

回答項目	回答者数
１．町内から通学	21
２．町外から通学	3
合計	24



69P

Ｑ５　【中学生】どの高校への進学をお考えですか。（選択肢から番号を一つ選んで記載）

【高校生】学校名をお答えください。（選択肢から番号を一つ選んで記載）

中学生が志望する高校は、「1．深川西高校」が5割と最も多く、続いて「8．まだ考えていない」が2割強、「7．その他の高校」が2割弱の順となっています。

高校生が通学する学校は、「1．深川西高校」が5割弱と最も多く、続いて「3．滝川高校」が4割の順となっています。

図　「中学生の志望校」と「高校生が通学する高校」

○その他の内容

【中学生】
・雨竜高等養護学校
・高等養護学校（どこに行くかは未定）
・滝川高校か旭川市内の高校
・岩見沢農業高校

【高校生】
・雨竜高等養護学校

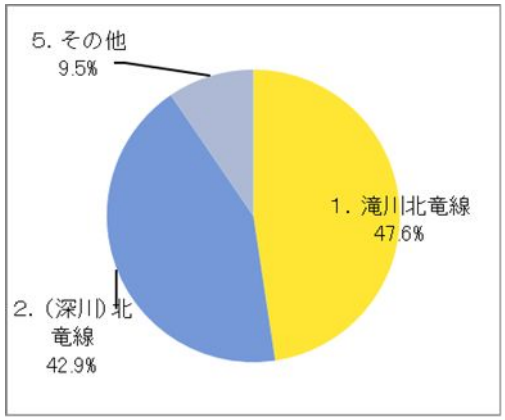
67P

Ｑ７　高校に通学するときの交通手段をお答えください。（選択肢から番号を一つ選んで記載）

通学の交通手段は「1．中央バス滝川北竜線」が５割弱に対し、「2．空知中央バス（深川）北竜線」が４割強となっています。なお「5．その他」としては、「JR妹背牛駅」までの送迎が１割（2件）となっています。

図表　高校に通学するときの交通手段

回答項目	回答者数
１．中央バス滝川北竜線	10
２．空知中央バス（深川）北竜線	9
３．沿岸バス・道北バス留萌旭川線	0
４．家族の車で高校まで送迎	0
５．その他	2
合計	21



○その他の内容

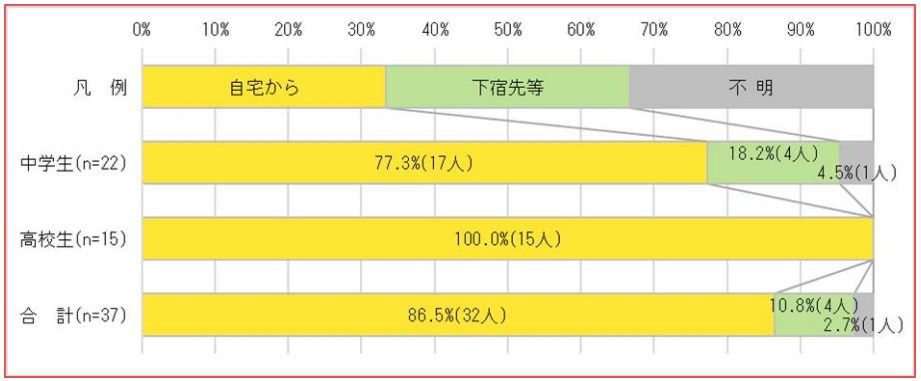
・JR妹背牛駅まで送迎（２件）

70P

Ｑ６　【中学生】高校への通学は、「ご自宅からの通学」を考えていますか。それとも「高校近くへの下宿等」を考えていますか。（それぞれ一つに○）

【高校生】高校への通学は、「北竜町内のご自宅」からですか。それとも「高校近くの下宿先等」からですか。（一つに○）

自宅からの通学を考えていない回答は、「中学生」で2割弱となっています。



Ｑ７　【中学生】クラブ・サークルへの所属は考えていますか。（一つに○）

中学生のクラブ・サークルへの所属希望は、「1．考えている」が4割強と最も多く、続いて、「3．まだわからない」が4割弱、「2．考えていない」が2割強の順となっています。

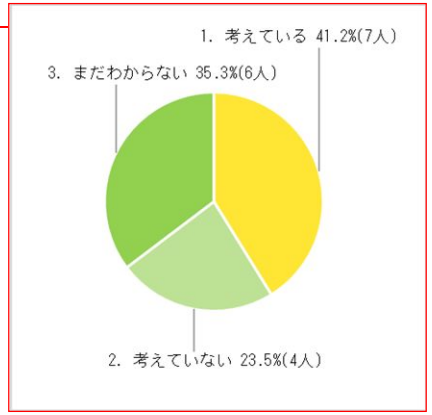


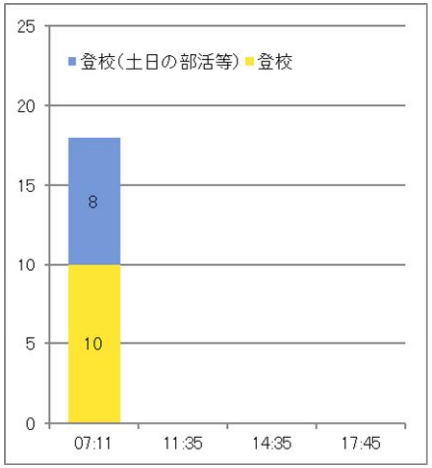
図　クラブ・サークルへの所属希望（中学生）

68P

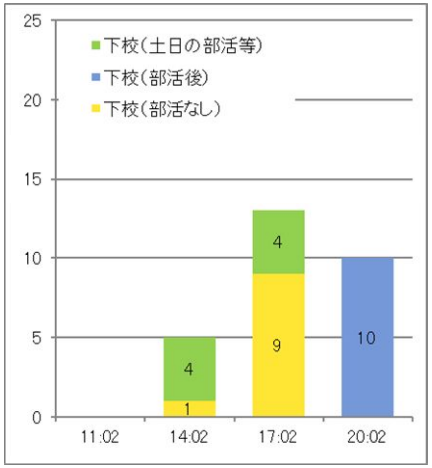
Ｑ８　利用している運行便をお答えください。登校、下校（部活なし・部活後）、土日の部活の登下校それぞれについてお答えください。（それぞれ選択肢から番号を一つ選んで記載）

滝川北竜線、（深川）北竜線とも土日の部活を含め登校便は、概ね７時台の便となっています。平日の下校（部活なし）は滝川北竜線が17時台、（深川）北竜線が16時台、部活後は両線とも20時前後となっています。下校（土日の部活等）は滝川北竜線が14時台と17時台、（深川）北竜線が13時台となっています。

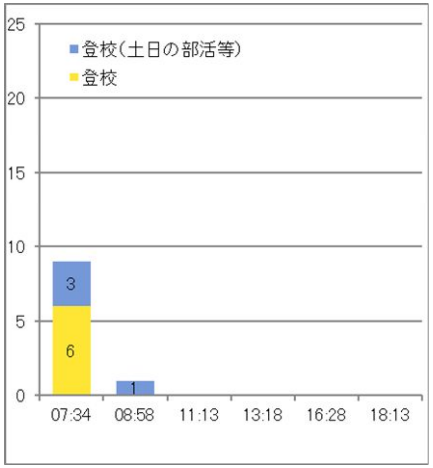
▼滝川北竜線／登校



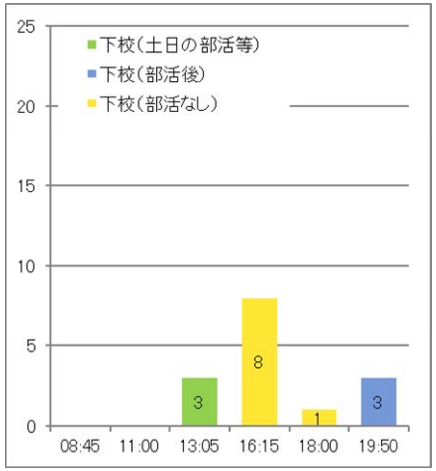
▼滝川北竜線／下校



▼（深川）北竜線／登校



▼（深川）北竜線／下校

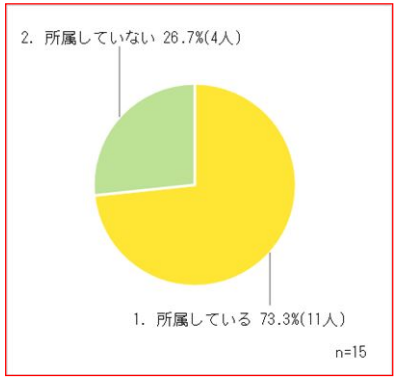


71P

Ｑ７　【高校生】部活動の有無と、部活動後の最も多い帰宅時間帯をお答えください。

高校生のクラブ・サークルへの所属状況は、「1．所属している」が7割強と「2 所属していない」の3割弱を上回っています。

「1．所属している高校生」の帰宅時間帯は、「19時台」が7割となっています。



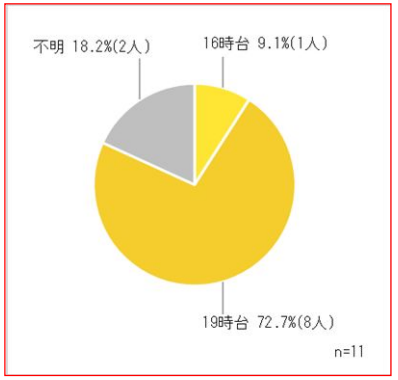
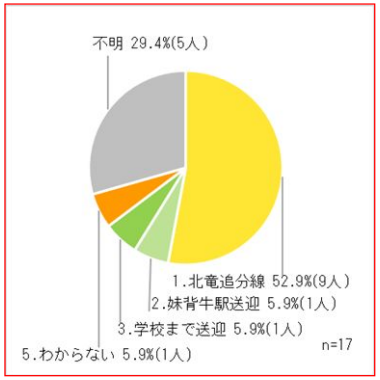


図　クラブ・サークルへの所属状況（高校生）　図　クラブ・サークルからの帰宅時間帯

Ｑ８　【中学生】通学する時に利用が想定される交通手段をお答えください。

Ｑ８－１　滝川市内の高校に通学する場合、想定される交通手段をお答えください。（一つに○）

中学生が考えている滝川市内の高校に通学する場合の交通手段は、「1．北竜追分線」が5割強となっています。



高校通学における交通手段（滝川市内：中学生）

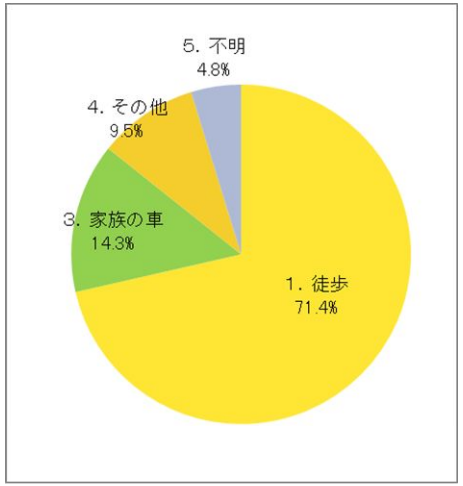
69P

Ｑ９　自宅と最寄りのバス停留所までの交通手段をお答えください。（選択肢から番号を一つ選んで記載）

自宅から最寄りのバス停留所までの交通手段は、「1．徒歩」が７割強と「3．家族の車」の１割強を大きく上回っています。

図表　最寄りのバス停留所までの交通手段

回答項目	回答者数
０．家族の車で高校まで通学	0
１．徒歩	15
２．自転車	0
３．家族の車	3
４．その他	2
５．不明	1
合計	21



72P

Ｑ８－２　【中学生】深川市内の高校に通学する場合、想定される交通手段をお答えください。（一つに○）

中学生が考えている滝川市内の高校に通学する場合の交通手段は、「1．深川北竜線」が8割弱となっています。

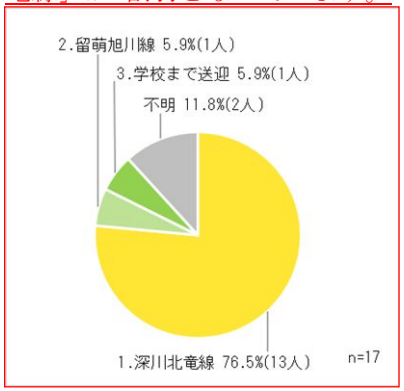


図　高校通学における交通手段（深川市内：中学生）

Ｑ８－１　【高校生】滝川市内の高校への交通手段をお答えください。（一つに○）

滝川市内の高校へは、「1．北竜追分線」が7割弱（4人）、「4．JR（妹背牛駅）」と「5．学校まで送迎」が2割弱（1人）となっています。

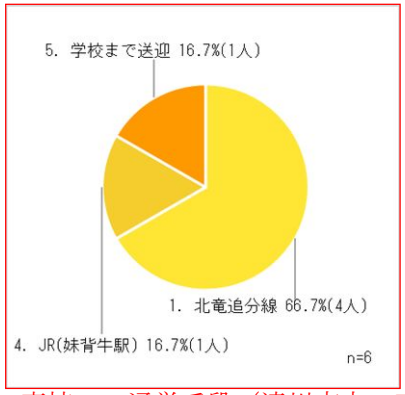


図　高校への通学手段（滝川市内：高校生）

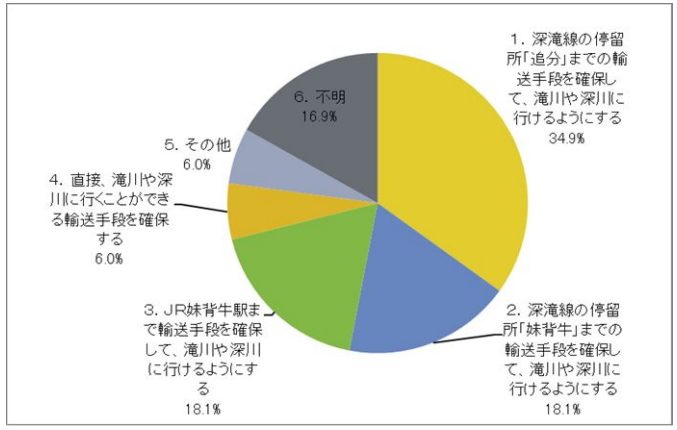
70P

Ｑ１０　中央バス滝川北竜線と空知中央バス（深川）北竜線が長期間運休すると仮定した場合、どの交通手段を選択しますか。登校、下校（部活なし・部活後）、土日の部活の登下校それぞれについてお答えください。（それぞれ選択肢から番号を一つ選んで記載）

仮に滝川北竜線と（深川）北竜線が運休する場合の代替輸送手段は、「１．深滝線の停留所「追分」にアクセス」が３割弱と最も多く、続いて「０．家族の車で高校まで通学」が２割強、「２．深滝線の停留所「妹背牛」にアクセス」と「３．ＪＲ妹背牛駅にアクセス」が１割強となっています。

図表　滝川北竜線と（深川）北竜線の代替輸送手段

回答項目	回答
０．家族の車で高校まで通学	22
１．深滝線の停留所「追分」までの輸送手段を確保して、滝川や深川に行けるようにする	29
２．深滝線の停留所「妹背牛」までの輸送手段を確保して、深滝線で滝川や深川に行けるようにする	15
３．ＪＲ妹背牛駅まで輸送手段を確保して、滝川や深川に行けるようにする	15
４．直接、滝川や深川に行くことができる輸送手段を確保する	5
５．その他	5
６．不明	14
合計	105



73P

Ｑ８－２　【高校生】深川市内の高校への交通手段をお答えください。（一つに○）

深川市内の高校へは、「2. （深川）北竜線」が9割弱（6人）で、「1. 北竜追分線」が１割強（1人）となっています。

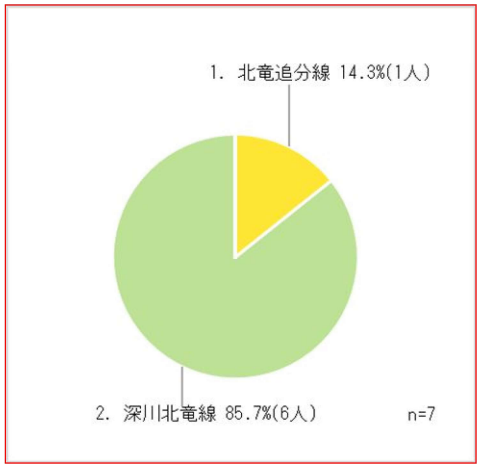


図　高校への通学手段（深川市内：高校生）

Ｑ８－３　【高校生】その他の地域の高校への交通手段をお答えください。

その他の地域の高校への通学は、「3. 留萌旭川線」が5割（1人）となっています。

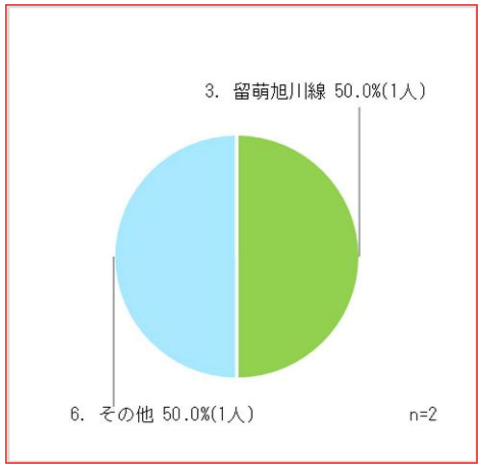


図　高校への通学手段（その他の地域：高校生

74P

Ｑ８―４　【中学生】ご自宅から「バス停※」までの交通手段をお答えください。（それぞれ一つに○）

【高校生】Ｑ８－１で「1．町営バス北竜追分線＋空知中央バス深滝線」と「2．空知中央バス深川北竜線」を回答された方への質問です。ご自宅からバス停※までの交通手段をお答えください。（それぞれ一つに○）

　夏期における自宅と停留所間の交通手段は、「1．徒歩」が7割強と最も多く、続いて「3．自家用車」が2割強となっています。

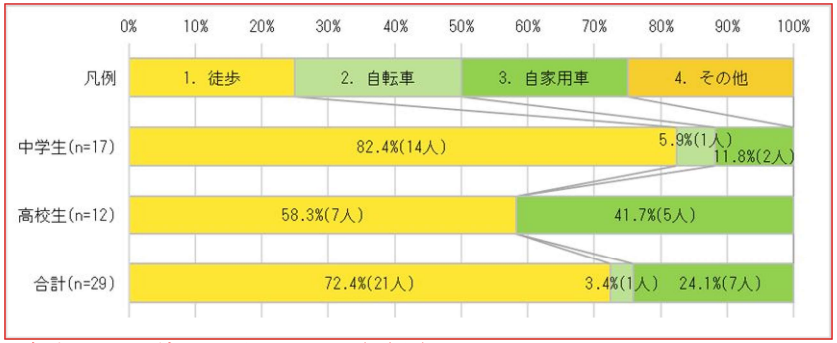


図　自宅とバス停間の交通手段（夏期）

　冬期における自宅と停留所間の交通手段は、「1．徒歩」が8割と最も多く、続いて「3．自家用車」が2割となっています。

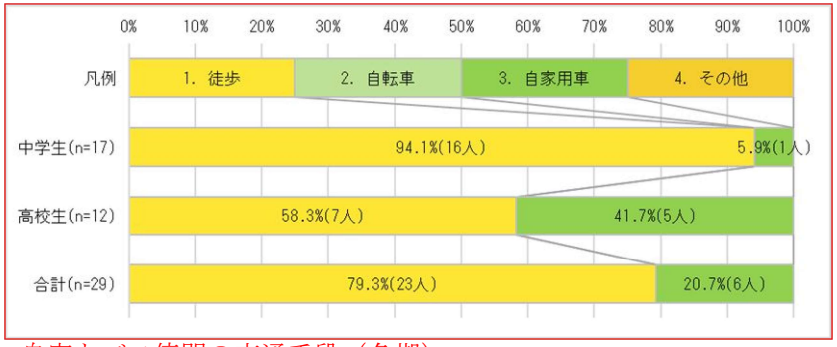


図　自宅とバス停間の交通手段（冬期）

75P

Ｑ９　【中学生】Ｑ８－２の深川市内高校への通学で、「1．空知中央バス深川北竜線」を回答された方への質問です。仮に空知中央バス深川北竜線が運行を取りやめる場合、追分市街経由の町営バスを利用し深川市へ通学しますか。それとも他の交通手段をご利用しますか。（一つに○、必要なことを記入）

【高校生】Ｑ８－１で「2．空知中央バス深川北竜線」または「3.JR函館本線（妹背牛駅）利用」を回答された方への質問です。仮に空知中央バス深川北竜線が運行を取りやめる場合、追分市街地経由の町営バスを利用し通学しますか。それとも他の交通手段をご利用しますか。（一つに○、必要なことを記入）

　仮に「（深川）北竜線」が取りやめになる場合の代替交通手段は、「1．北竜追分線」が4割強と最も多く、続いて「2．学校まで送迎」が2割、「3．送迎＋深滝線」が2割弱の順となっています。

図　「（深川）北竜線」の代替交通手段

76P

Ｑ１０　その他、公共交通についてご意見等ありましたらお書きください。

【中学生】

・高校通学に対する助成は一部分であるため、経済的な影響が大きい。
・（深川）北竜線が廃止になると自家用車がなければどこにも行くことができなくなる。
・深滝線が遅れた場合、町営バス北竜追分線からの乗継ぎに時間が空いてしまい、冬期間を考えると厳しい。
・滝川行きに加え、深川行きもなくなると不便になる。子供たちのためにも継続してほしい。
・（深川）北竜線が廃止になった場合は、乗継ぎが不便なので深川まで行ってほしい。
・バスがなくなると不便なため、継続してほしい。

【高校生】

・高校に通うための選択肢が削られて不便。
・沿岸バスでの通学は深川十字街で下車した後、距離があるため学校に間に合わない。
・公共交通が不便になることで、人口減少が加速する。
・妹背牛までの町営バスを希望。
・部活の朝練習のため妹背牛まで自家用車で送っている。
・部活の終了時間が一定ではないため、友人同士で助け合って送迎している。
・北竜追分線は乗合タクシーのように予約運行することが考えられる。

71P

３－２．バス乗降調査

バス乗降調査は、北海道中央バス(株)による調査結果を使用し、次のとおり集計・分析を行いました。

（１）滝川北竜線

乗降調査期間及び調査日は、令和元年４月から令和２年３月（平日は４月）において、月に１日それぞれ平日、土曜、日曜の調査を行い、１日当り、あるいは便あたりの集計を行いました。

①平日

・乗車人数０人の便が往復104便中22便（21%）
・追分市街まで最大乗車人数15人（滝川までは35人）
・雨竜町における国道275号以外の停留所にも乗降客が見られる

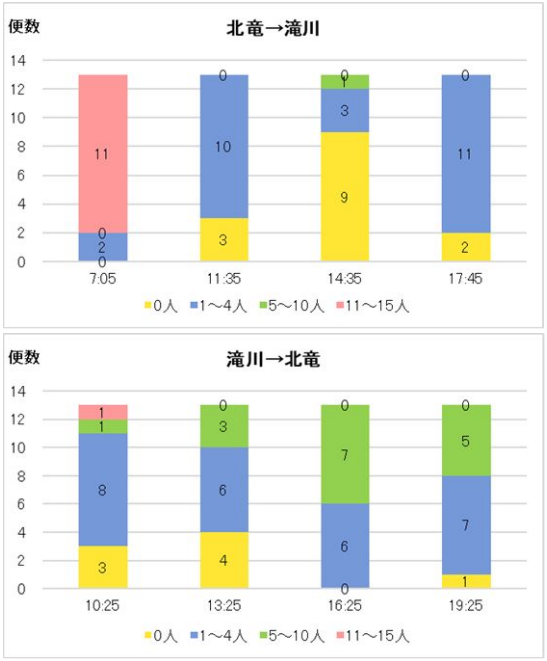


図　滝川北竜線の便別乗車人数ランク（平日）

2019.4～2020.4までの月１日の調査結果

資料：北海道中央バス（株）

77P

３－２．バス乗降調査

バス乗降調査は、空知中央バス(株)様による輸送データの提供により、次のとおり集計・分析を行いました。

削除

72P

図　滝川北竜線乗降調査結果（金曜日）

2019.4～2020.4までの月１日の調査結果

資料：北海道中央バス（株）

削除

73P

②土曜

・乗車人数０人の便が往復96便中21便（22%）

・追分市街まで最大乗車人数15人（滝川までは15人）

・雨竜町における国道275号以外の停留所にも乗降客が見られる

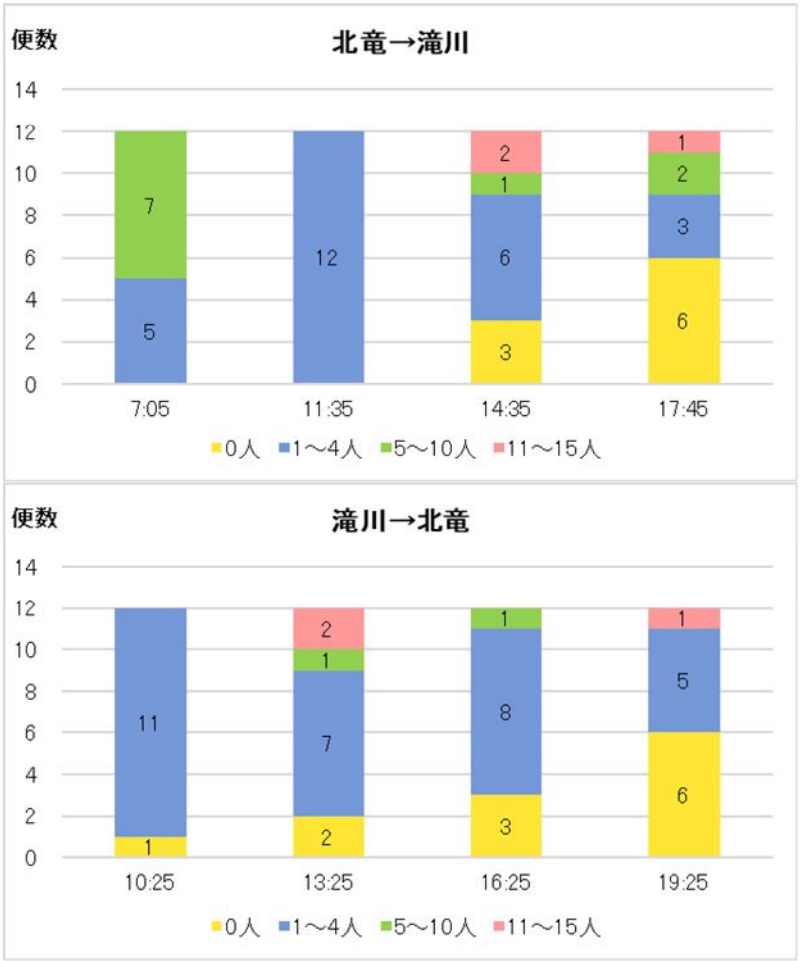


図　滝川北竜線の便別乗車人数ランク（土曜日）

2019.4～2020.3までの月１日の調査結果

資料：北海道中央バス（株）

削除

74P

図　滝川北竜線乗降調査結果（土曜日）

2019.4～2020.3までの月１日の調査結果

資料：北海道中央バス（株）

削除

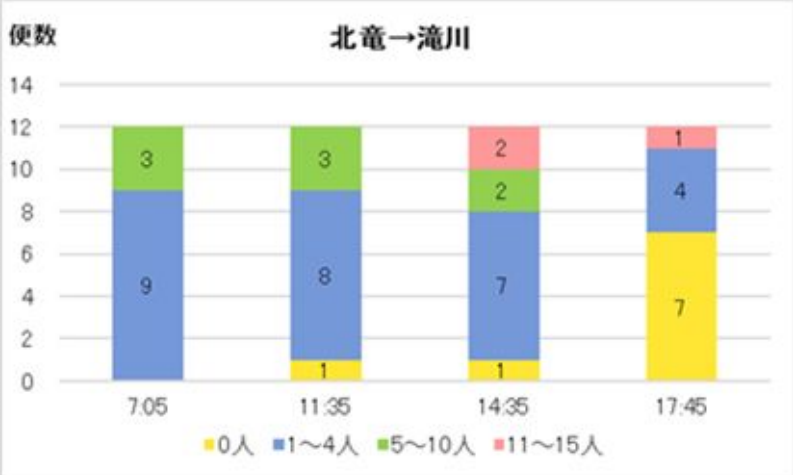
75P

③日曜

・乗車人数０人の便が往復96便中28便（29%）

・追分市街まで最大乗車人数12人（滝川までは14人）

・雨竜町における国道275号以外の停留所にも乗降客が見られる



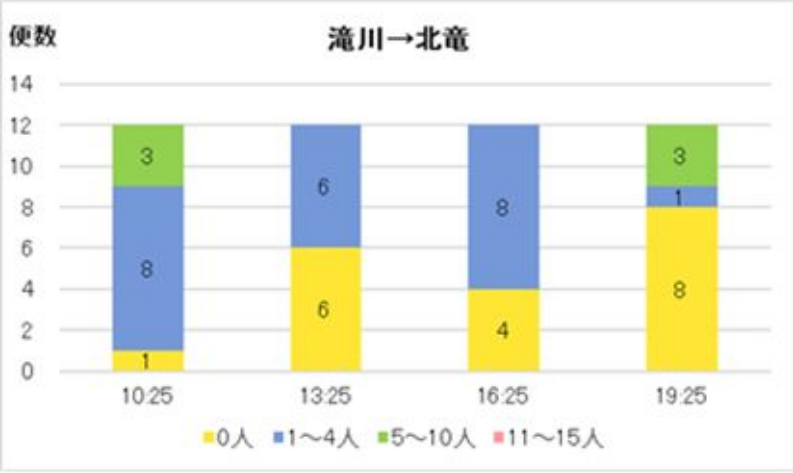


図　滝川北竜線の便別乗車人数ランク（日曜日）

2019.4～2020.3までの月１日の調査結果

資料：北海道中央バス（株）

削除

76P

図　滝川北竜線乗降調査結果（日曜日）

2019.4～2020.3までの月１日の調査結果

資料：北海道中央バス（株）

削除

77P

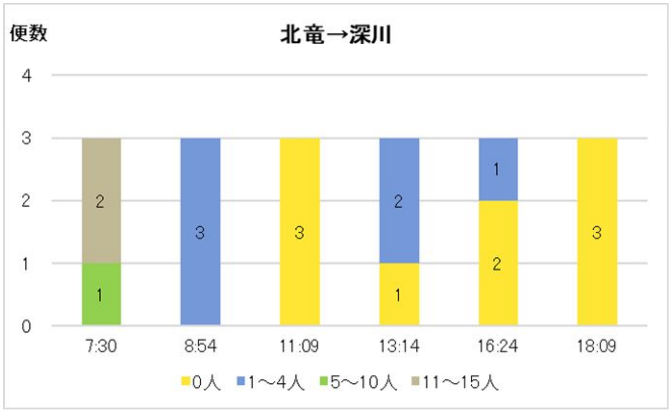
（２）（深川）北竜線

乗降調査期間は、令和２年９月16日（水）から９月20日（日）までの５日間で、平日及び土曜日・日曜日における１日当り、あるいは便あたりの集計を行いました。

①平日

・乗車人数０人の便が往復36便中15便（42%）

・妹背牛まで最大乗車人数13人（深川までは23人）



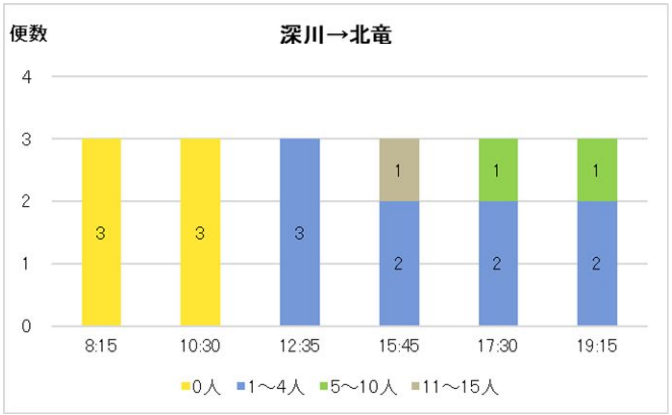


図　（深川）北竜線の便別乗車人数ランク（平日）

2020.9.16～2020.9.18の３日間の調査結果

資料：北海道中央バス（株）

77P

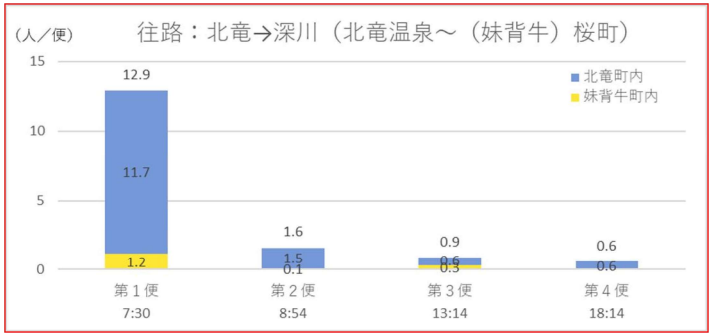
（１）（深川）北竜線

乗降調査は、令和4年度において平日が10日間、土日が8日間で実施しており、平日、土日それぞれにおいて北竜温泉～（妹背牛）桜町間の1日当り便ごとの平均乗車人数を集計しました。

①平日

・往路は、深川西高校への通学利用として第1便が12.9人となっているものの、他の便は1.6人以下

・復路は主に深川西高校からの通学利用として、第3便が6.3人、第5便が5.3人



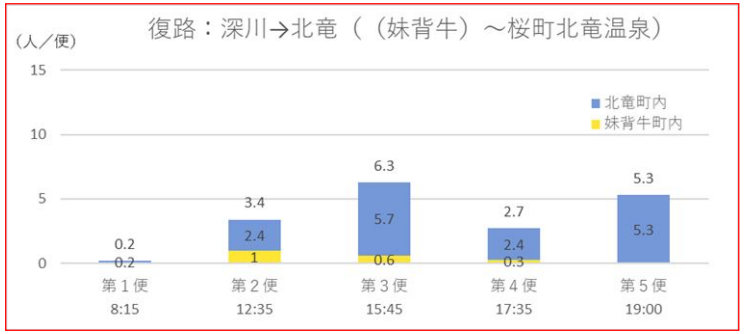


図　令和4年度における平日10日間の平均乗車人数

資料：空知中央バス（株）

78P

削除

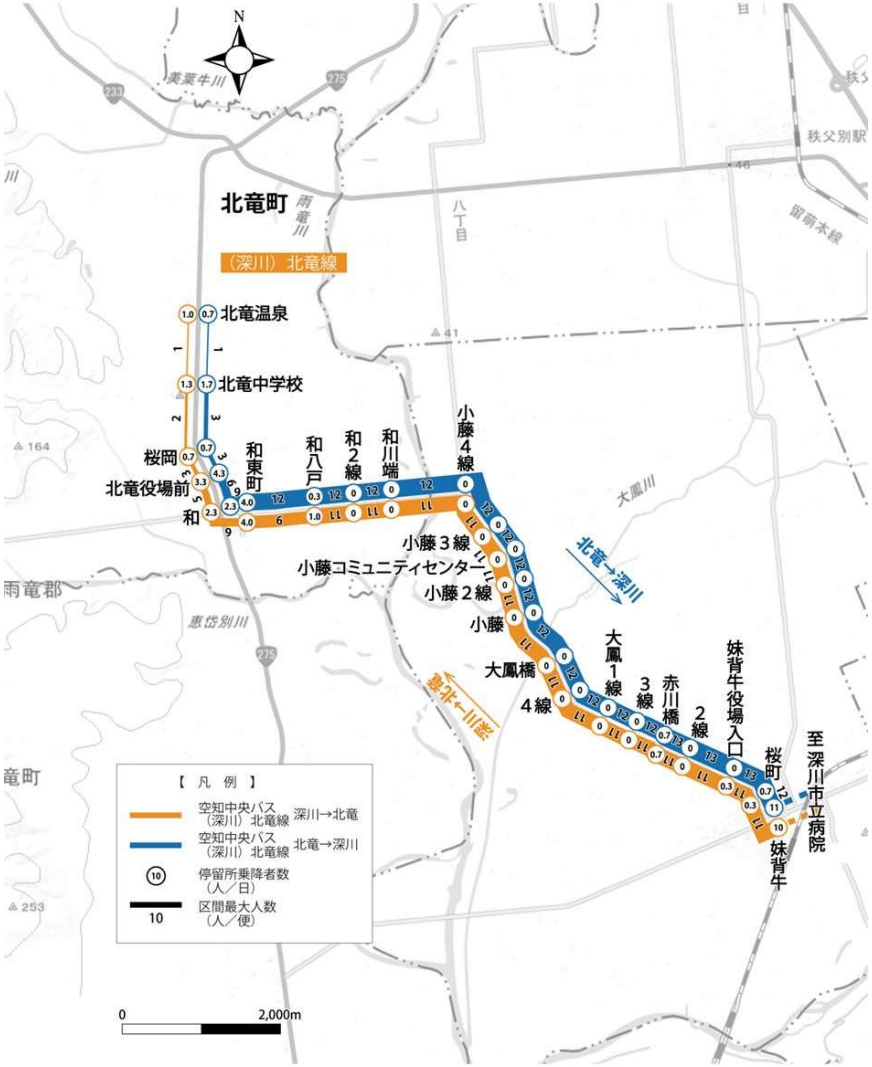


図　（深川）北竜線乗降調査結果（平日）

2020.9.16～2020.9.18の３日間の調査結果

資料：北海道中央バス（株）

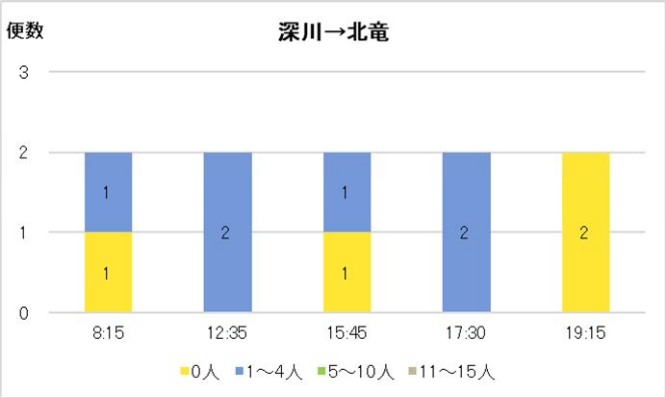
79P

②土曜・日曜

・乗車人数０人の便が往復20便中８便（40%）

・妹背牛まで最大乗車人数３人（深川までは７人）

・乗車人数が少ない（ジャンボタクシー程度で輸送可能）



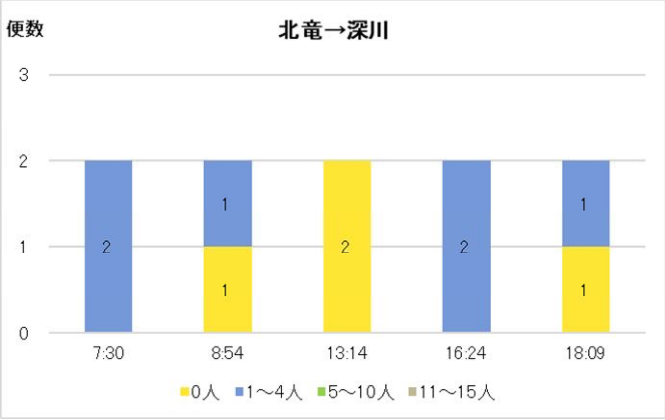


図　（深川）北竜線の便別乗車人数ランク（土曜日・日曜日）

2020.9.19～2020.9.20の２日間の調査結果

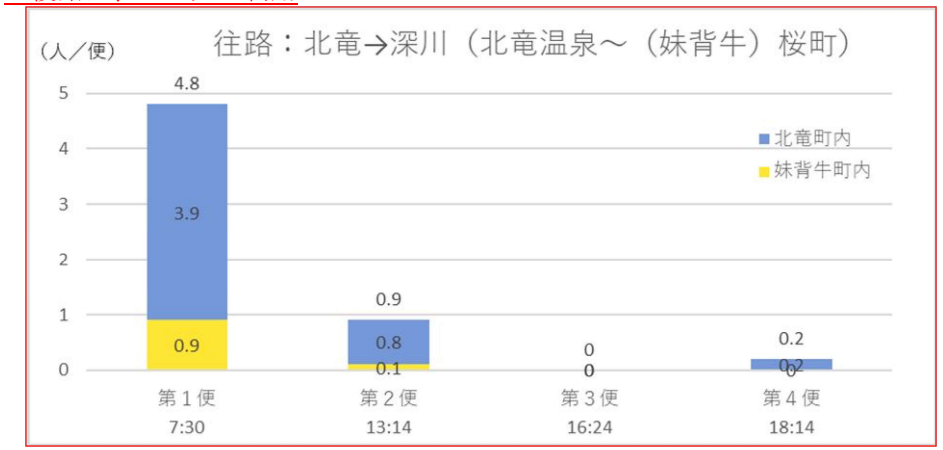
資料：北海道中央バス（株）

78P

②土曜・日曜

・往路は、主に土曜の深川西高校の通学により第１便が4.8人となっているものの、他の便は１人以下

・復路は、1～3人が利用



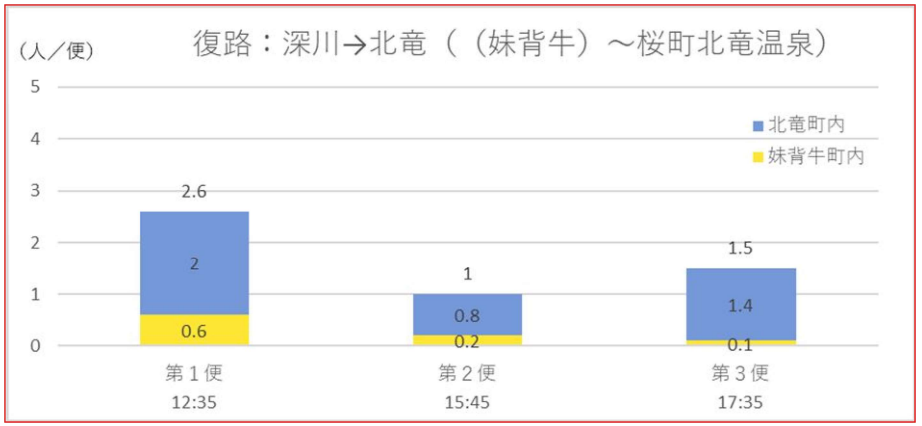


図　令和4年度における土日8日間の平均乗車人数

資料：空知中央バス（株）

80P

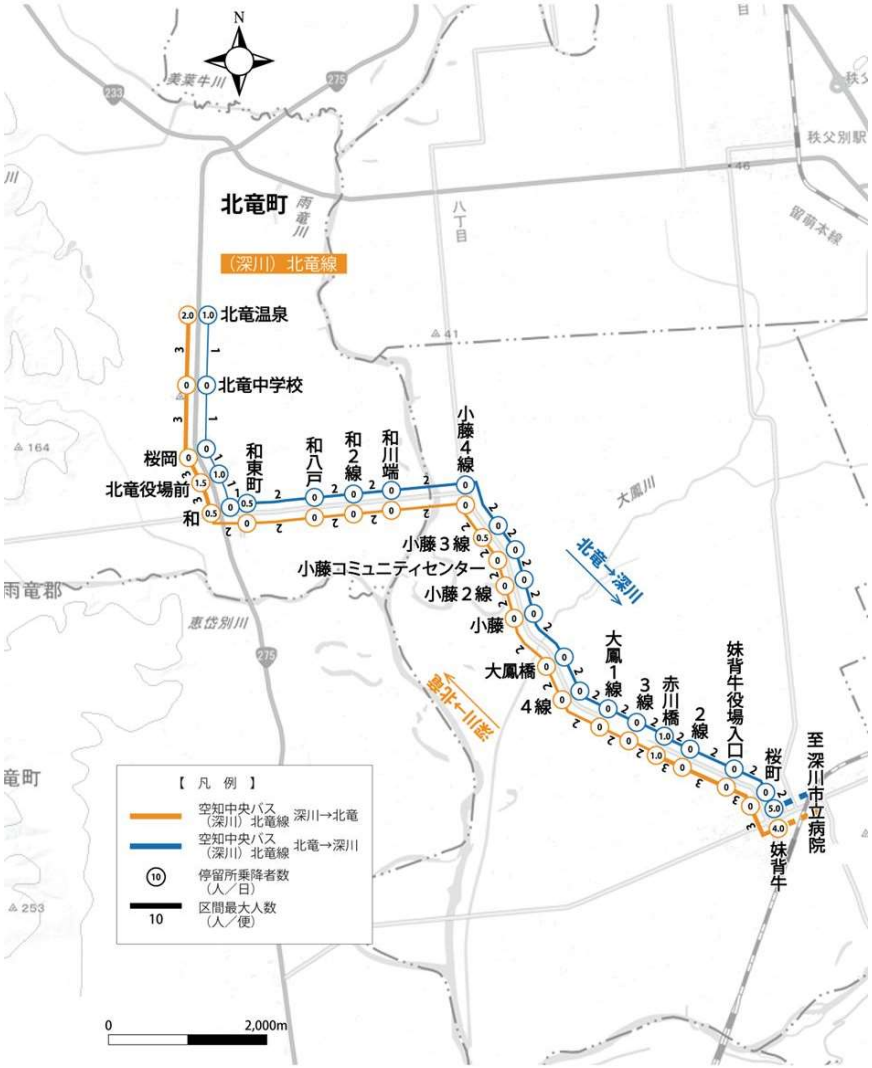


図　（深川）北竜線乗降調査結果（土曜日・平日）

2020.9.19～2020.9.20の２日間の調査結果

資料：北海道中央バス（株）

81P

削除

３－３．関係町ヒアリング結果

電話連絡により滝川北竜線沿線の雨竜町と新十津川町へ代替交通手段に関するヒアリングを行いました。

結果は、各町内で公共交通確保を検討しているため、滝川北竜線全路線の代替路線を北竜町が確保する場合、維持費用が大きく増大することが考えられます。

町名	意向（令和２年 10 月 23 日現在のヒアリング結果）
雨竜町	・スクールバスへの一般混乗や、タクシーチケットの配布といった雨竜町内で完結する輸送手段により、対応することを検討中
新十津川町	・スクールバスへの一般混乗や、デマンド交通といった新十津川町内で完結する輸送手段により、対応することを検討中。

※滝川市については、滝川北竜線と併行する滝新線等が運行するため、滝川北竜線の廃止（予定）による影響は少ないと考えられる。

82P

第４章　地域公共交通の課題整理

４－１．主要な課題の整理

「第２章　既往資料による地域及び公共交通の概要」と「第３章　地域公共交通実態調査」から、主要な課題を以下のとおり整理します。

（１）中央バス滝川北竜線の代替公共交通の確保

住民アンケート調査結果からは「北竜町と滝川市の間の直接アクセス」が求められているものの、一般の方の利用頻度は低い状況となっています。一方、利用頻度が高い高校生からは「北竜町と雨竜町の追分市街との間のアクセス」が多い状況となっています。

このため、直接滝川市にアクセスする場合と雨竜町追分市街地にて深滝線と乗継ぐ形態について、以下のとおり検討して課題を整理します。

①北竜町と滝川市の間を直接アクセスする場合

削除

79P

第４章　地域公共交通の課題整理

４－１．主要な課題の整理

「第２章　既往資料による地域及び公共交通の概要」と「第３章　地域公共交通実態調査」から、主要な課題を以下のとおり整理します。

（１）路線バスの代替公共交通の確保

アンケート調査結果における滝川北竜線の代替交通について、利用頻度が少ない一般の方は「北竜町と滝川市の間の直接アクセス」、利用頻度が多い高校生は「北竜町と雨竜町の追分市街との間のアクセス」の意見が多い状況となっています。また滝川北竜線の廃止に加え、令和6年4月からは（深川）北竜線の廃止予定への対応が必要となりました。

このため、滝川市と深川市にアクセスできる広域的な公共交通手段がある妹背牛市街地へアクセスすることで路線バスの代替となる公共交通を確保する必要が

滝川北竜線の沿線町では、それぞれ滝川北竜線の代替交通を検討しているため、北竜町が単独で滝川市に直接アクセスする場合、大幅なコスト増加※が懸念されます。また、滝川までの輸送の場合、35人以上の大きな車両と新たな運転手の確保が必要となります。

※900万円/年→1,950万円/年：公共交通の収支状況より算定

②北竜町と雨竜町の追分市街との間をアクセスする場合

雨竜町の追分市街地までアクセス交通を確保する場合、滝川市とのアクセスよりも運行距離が大幅に短縮されるため、運行費用の縮減が期待できます。また運行車両については、小型の車両（15人程度）、あるいはジャンボタクシー２台と、新たな運転手の確保が必要となります。

（４）将来的な空知中央バス（深川）北竜線の検討

（深川）北竜線は、輸送人数の減少により市町村単独補助路線になるとしており、運行を維持するためには、地域公共交通とのネットワーク形成と、沿線市町との協力が必要となります。存続が困難となった場合、代替交通手段として以下の検討が必要となります。

・北竜町と雨竜町の追分市街との間のアクセス交通の活用
・沿岸バス・道北バス留萌旭川線の活用（登下校時に深川西高校へのアクセスが必要）
・北竜町と妹背牛町の妹背牛（停留所）との間のアクセス交通の検討　など

84P

４－２．計画策定の方向性

（１）中央バス滝川北竜線の代替公共交通の確保

住民アンケートにおける利便性、妥当な運行コストにおける持続性の確保、車両の適正配置といった観点から、現在の滝川北竜線と同等以上の利便性を考えた、北竜町と雨竜町の追分市街との間のアクセス交通を検討していくことが妥当と考えます。

あります。

（４）滝川市・深川市への直接アクセス

前述のとおり、アンケート調査結果では北竜町と滝川市の間の直接アクセスできる公共交通が求められておりますが、（深川）北竜線の廃止（予定）により、深川市へ直接アクセスできる公共交通が求められることが想定されます。

また北竜町内の町営バス、乗合タクシー及びスクールバスは、交通事業者における運転手不足により現在の運行を維持する以外に余裕がなく、新たなバス路線の新設などこれ以上の運行が困難な状況となっています。

一方で住民による自家用車を含めた移動は、平日一日で深川市が80人弱、滝川市が30人強となっています。

このため、地域中心都市である滝川市と深川市へ直接アクセスできる公共交通については、町内の交通事業者に頼らない方法を含めた研究・検討が必要です。

81P

４－２．計画策定の方向性

（１）路線バスの代替公共交通の確保

住民アンケートにおける利便性、妥当な運行コストにおける持続性の確保、車両の適正配置といった観点から、滝川北竜線や（深川）北竜線の利便性を考えた、アクセス交通を検討します。

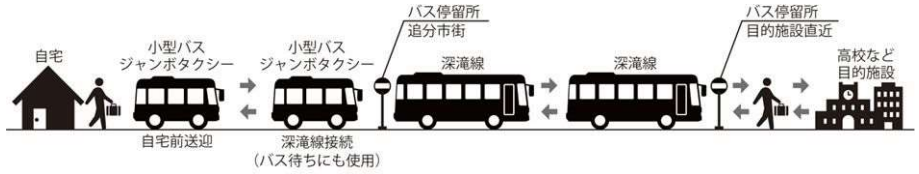


図　滝川北竜線と同等以上の利便性を考えたアクセス交通のイメージ

（２）スクールバス路線の統合

仮にスクールバス路線の統合が可能な場合、以下の路線設定が考えられます。

・現　　在（３路線）：美葉牛線、碧水線、竜西線

・統合の例（２路線）：美葉牛・碧水線、竜西・和線

なお路線統合により、新たな公共交通の運行を担うことができる運転手の確保が可能となります。

（３）乗合タクシーの収益性改善が必要

乗合タクシーなど自宅前送迎を行うデマンド交通の維持にあたっては、以下の検討による収益の向上等が必要です。

・乗合タクシー運賃の値上げ（例えば200円→300円）

・スクールバス一般混乗の廃止検討　→　乗合タクシーへの一般利用の集約化

（４）将来的な空知中央バス（深川）北竜線の検討

（深川）北竜線については、今後の動向に対応した検討が必要です。

85P

第５章　地域公共交通計画の策定

５－１．計画の基本的な方針

公共交通の現況やアンケート調査、乗降調査などの実態調査による課題及び公共交通の方向性と、総合計画など上位・関連計画から、地域公共交通計画のコンセプ

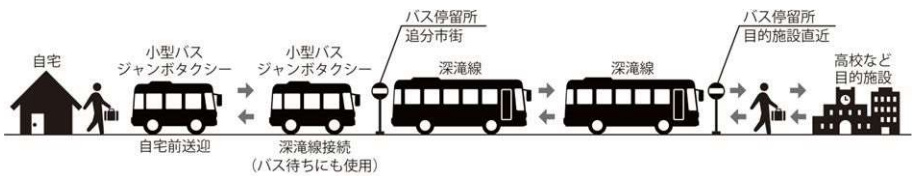


図　利便性を考えたアクセス交通のイメージ

（２）スクールバス路線の統合

スクールバスの運行を維持するために、路線の統合について検討を行います。

・現　　在（3路線）：美葉牛線、碧水線、竜西線

・統合の例（2路線）：美葉牛・碧水線、竜西・和線

削除

（３）乗合タクシーの収益性改善

乗合タクシーなど自宅前送迎を行うデマンド交通の維持にあたっては、以下の検討による収益率の向上を図ります。

・乗合タクシー運賃の値上げ（例えば200円→300円）

・スクールバス一般混乗の廃止検討　→　乗合タクシーへの一般利用の集約化

（４）滝川市・深川市との直接アクセスの検討

住民の要望が多いことが考えられる北竜町と滝川市・深川市と直接アクセスできる交通手段について、自家用車への相乗り（ライドシェア）を含めた研究・検討を行います。

82P

第５章　地域公共交通計画の策定

５－１．計画の基本的な方針

公共交通の現況やアンケート調査、乗降調査などの実態調査による課題及び公共交通の方向性と、総合計画など上位・関連計画から、地域公共交通計画の将来

トや基本目標等を以下のとおり定めます。

なお北竜町地域公共交通は、空知中央バス深滝線、同（深川）北竜線及び沿岸バス・道北バス留萌旭川線を地域間幹線として位置づけ、広域公共交通とのネットワークを形成することにより、地域全体の持続的な旅客サービスの提供を確保します。

また北竜町地域公共交通は北竜町運営有償運送、乗合タクシー等により、公共交通体系の構築を図ります。

（１）目指すべき将来像など

目指すべき将来像と基本方針は、上位関連計画から北竜町地域公共交通が果たすべき役割を設定し、この役割から定めます。

〇果たすべき役割

省略

像や基本方針を以下のとおり定めます。

なお北竜町地域公共交通は、空知中央バス深滝線と沿岸バス・道北バス留萌旭川線を地域間幹線として位置づけ、広域公共交通とのネットワークを形成することにより、地域全体の持続的な旅客サービスの提供を確保します。

また北竜町地域公共交通は北竜町運営有償運送、乗合タクシー等により、公共交通体系の構築を図ります。

（１）目指すべき将来像・基本方針

目指すべき将来像と基本方針は、地域公共交通の課題や北竜町総合計画の各種施策における公共交通が担うべき内容から定めます。

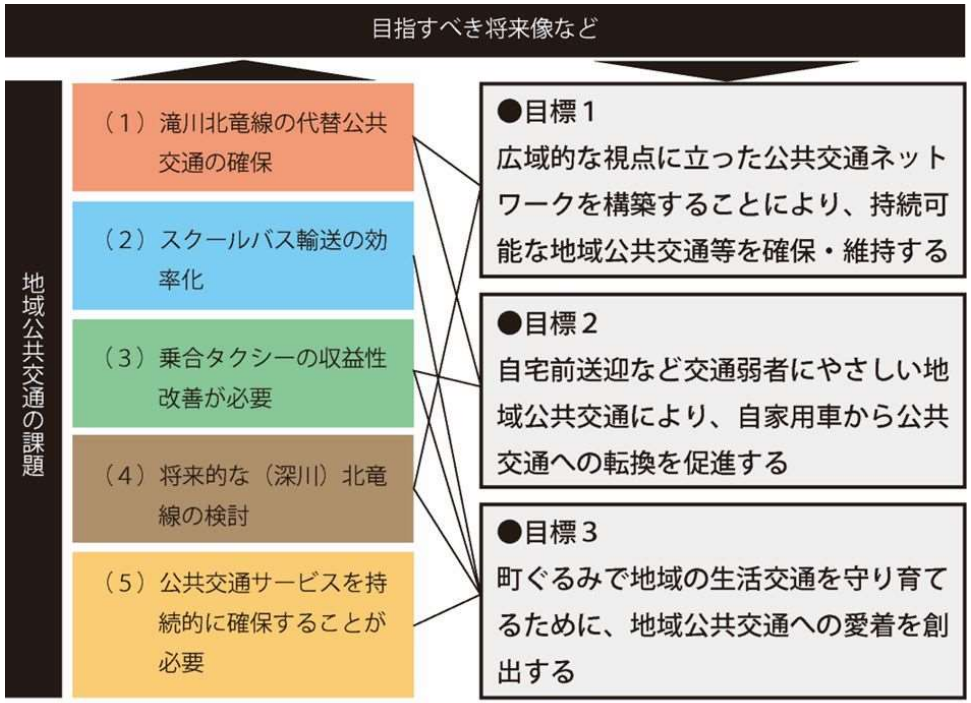
〇北竜町総合計画の各種施策における公共交通が担うべき内容

省略

86P

（２）基本目標

目指すべき将来像を具現化するために、公共交通の課題を踏まえ以下の３つを基本目標として設定し、「住民」、「交通事業者」及び「行政」の相互協力により、基本目標の実現を目指します。



（３）計画の区域

本計画の区域は北竜町行政区域とします。

また広域公共交通とのアクセス性を維持することの目的地としては、雨竜町を含めます。

（４）計画の期間

本計画の期間は、2021年度（令和３年度）から2025年度（令和７年度）までの５年間とします。

削除

（２）計画の区域

本計画の区域は北竜町行政区域とします。

また広域公共交通とのアクセス性を維持することの目的地としては、妹背牛町を含めます。

（３）計画の期間

本計画の期間は、2021年度（令和3年度）から2025年度（令和7年度）までの5年間とします。

84P

（４）公共交通の機能分担と性格・役割

地域公共交通の基本理念と基本方針から、北竜町地域公共交通として位置づける各公共交通の機能分担、性格・役割を以下のとおり整理し、これを将来の公共交通体系とします。なお令和4年7月に策定された北空知4町地域公共交通計画と整合を図るものとします。

表　公共交通の機能分担と性格・役割

機能分類		性格・役割
広域交通・地域間交通 ・北海道中央バス高速るもい号 ・沿岸バス留萌旭川線 ・空知中央バス深滝線		・広域的な公共交通軸 ・通勤、通学、通院、買物、観光など多様な目的に対応
町内公共交通	地域内フィーダー系統 ・アクセス交通 ▸町営バス北竜妹背牛線（変更）※ ▸乗合タクシー ▸連絡施設間運行便	・市街地内及び市街地と郊外部との間の生活を支える路線 ・通学（滝川市）、通院、買物等の目的に対応
	補完交通 ・ハイヤー ・滝川・深川アクセス交通（新規）	・主に通院、買物などの目的に対応
	補完交通 ・スクールバス	・児童生徒の登下校などに対応 ・高齢者の買物、通院等に利用

※：空知中央バス（深川）北竜線の廃止に伴い、町営バス北竜追分線から同北竜妹背牛線にルート変更

図　北竜町の公共交通体系

87P

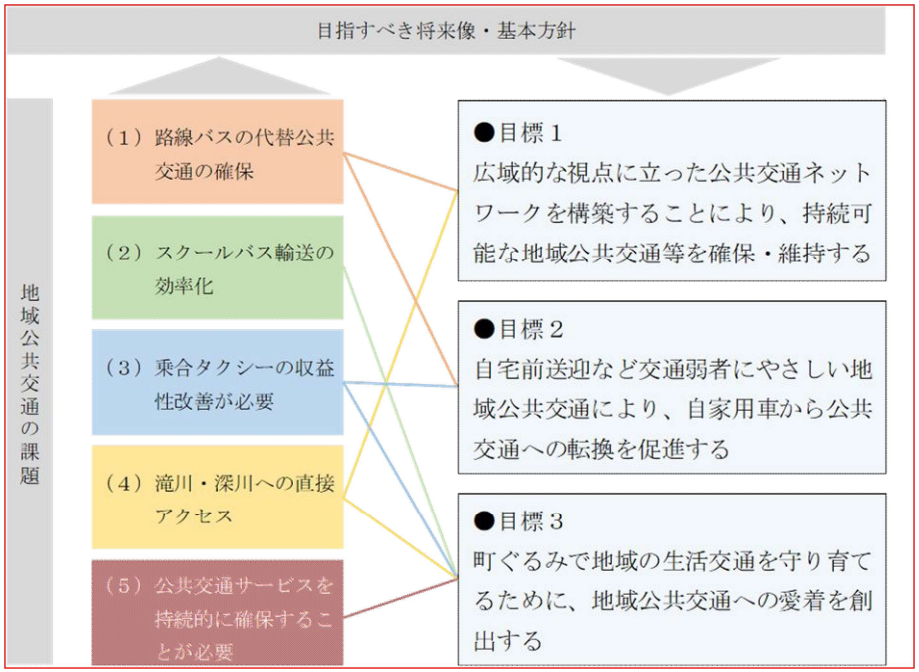
５－２．計画の目標

85P

５－２．計画の目標

（１）基本目標

目指すべき将来像を具現化するために、公共交通の課題を踏まえ以下の３つを基本目標として設定し、「住民」、「交通事業者」及び「行政」の相互協力により、基本目標の実現を目指します。



以下に基本目標に対応した目標・目標値を設定します。

基本目標（略称）	評価指標		現況・現況値	目標・目標値	備考
（１）持続可能な地域公共交通等を確保・維持する	広域公共交通の維持		運行維持		
	アクセス交通・町内公共交通の輸送人数等	輸送人数 収 益 率 町負担額	14,974 人／年 ８％ 8,983 千円	13,000 人／年 20% 5,000 千円	注１ 注２ 注３
	スクールバスの効率化		３路線	２路線	
	自宅前送迎の予約情報処理による運行支援と予約情報の活用		運行支援と活用中	引き続き実施	
（２）自家用車から公共交通への転換を促進する	高齢者運転免許証の自主返納者数		実施中	65 人／５ヵ年	注４
	乗合タクシーなどの新規利用登録者数		新規登録受付け中	11 人／５ヵ年	注５
（３）地域公共交通への愛着を創出する	利用者のニーズの把握と反映（意識調査の実施）		直近で H30 に実施	計画期間中に１回以上実施	
	地域に親しまれる愛称の設定		－	愛称の設定	
	分かりやすい自宅前送迎の案内		18.8%	25%	注６

注１　令和元年度乗車人数　乗合タクシー　1,884 人
連絡施設間運行便　20 人（見込み）
スクールバス一般利用　2,674 人
中央バス滝川北竜線乗降調査結果（日数：R4.10～R5.9）
平日平均　32 人／日×247 日＝　7,904 人
土曜平均　24 人／日× 50 日＝　1,200 人
日曜平均　19 人／日× 68 日＝　1,292 人　計　10,396 人
合計　14,974 人
直近５年間の人口減少率　1,759 人(R2.9)÷2,046 人(H26.9)＝0.86
目標値 14,974 人×0.86　＝　12,878　≒　13,000 人／年

注２　現況値は令和元年度の乗合タクシー収益率

注３　現況値は令和元年度の滝川北竜線の北竜町負担額

注４　近年の実績値により設定（H27：15 名、H28：８名、H29：12 名、H30：15 名、R1：13 名）５ヵ年で 63 名≒65 名

注５　北竜町総合計画（地域公共交通登録者数　2018 年度末 229 人→2023 年度末 240 人　５ヵ年で 11

86P

（２）評価指標・目標値

以下に基本目標に対応した評価指標・目標値を設定します。

基本目標（略称）	評価指標		現況・現況値※	目標・目標値	備考
（１）持続可能な地域公共交通等を確保・維持する	広域公共交通の維持		北空知４町地域公共交通計画にて設定		
	アクセス交通・町内公共交通の輸送人数等	輸送人数 収 益 率 町負担額	15,991 人／年 13.6% 23,358 千円	9,559 人／年 11.5% 12,497 千円	注１ 注２ 注３
	スクールバスの効率化		３路線	２路線	
	自宅前送迎の予約情報処理による運行支援と予約情報の活用		運行支援と活用中	引き続き実施	
（２）自家用車から公共交通への転換を促進する	高齢者運転免許証の自主返納者数		実施中	65 人／5 ヵ年	注４
	乗合タクシーなどの新規利用登録者数		新規登録受付け中	11 人／5 ヵ年	注５
（３）地域公共交通への愛着を創出する	利用者のニーズの把握と反映（意識調査の実施）		直近で H30 に実施	計画期間中に１回以上実施	
	地域に親しまれる愛称の設定		－	愛称の設定	
	分かりやすい自宅前送迎の案内		18.8%	25%	注６

※「現況・現況値」について、「アクセス交通・町内公共交通の輸送人数等」は「Ｒ４」、他は「Ｒ１」

人増）
注６　現況値は平成 27 年度の乗合タクシーアンケート調査で、「十分把握できた」と回答した方の割合
利用者のニーズ把握時において検証する

86P

注1　輸送人数

項　目	令和４年 実績	令和７年 目標
空知中央バス（深川）北竜線	8,574 人※1	―
町営バス北竜妹背牛線	―	2,142 人※2＋2,598 人
町営バス北竜追分線	2,598 人	―
乗合タクシー（３区域）	2,734 人	
スクールバス一般利用	2,085 人	
合計	15,991 人 （深川）北竜線を除く 7,417 人	9,559 人

※空知中央バス（深川）北竜線の輸送人数（北竜町内）

※１　令和４年 実績
空知中央バス（深川）北竜線の令和４年度輸送人数（バス乗降調査結果）
・平日：30.4 人/日　×247 日　＝　7,509 人
・休日：　9.1 人/日　×118 日　＝　1,065 人
計＝　8,574 人
※２　令和７年 目標　町営バス北竜追分線の実績から乗継による減少を見込む
・（深川）北竜線人数×（北竜追分線人数÷滝川北竜線人数）
＝8,574 人×（2,598 人÷10,396 人）＝2,142 人

87P

注2　収益率（収支率）

○収益

項　目	令和４年 実績	令和７年 目標
空知中央バス（深川）北竜線	1,980 千円※1	―
町営バス北竜妹背牛線	―	495 千円※2＋399 千円
町営バス北竜追分線	399 千円	399 千円 （町営バス北竜妹背牛線に移行）
乗合タクシー（３区域）	527 千円	
スクールバス一般利用	187 千円	
合計	3,093 千円	1,608 千円

※全収益に対する北竜町内の按分

※1　令和４年
・全収益×北竜町内人数÷全人数
・4,672 千円×（8,574 人÷20,231 人）＝1,980 千円
※2　令和７年目標　町営バス北竜追分線の実績から乗継による減少を見込む
・1,980 千円×（2,598 人÷10,396 人）＝495 千円

○運行費

項　目	令和4年 実績	令和7年 目標
空知中央バス（深川）北竜線	10,727千円	―
町営バス北竜妹背牛線	―	7,859千円
町営バス北竜追分線	5,876千円	―
乗合タクシー	6,059千円	
スクールバス一般利用	―	―
合計	22,662千円	13,928千円

※全運行費用に対する北竜町及び妹背牛町内の案分

※1　令和４年
・18,153 千円×（11.7km÷19.8km）＝10,727 千円
※2　令和７年目標　町営バス北竜追分線の実績から運行費用を算定
・ 5,876 千円×（14.1km÷12.3km）×（７便÷６便：１便増便）＝ 7,859 千円

○収益率（収支率）

項　目	令和４年 実績	令和７年 目標
収益率（収支率）	13.6%	11.5%

注3　町負担額

項　目	令和４年 実績	令和７年 目標
空知中央バス（深川）北竜線	13,481 千円	―
町営バス北竜妹背牛線	―	6,965 千円
町営バス北竜追分線	4,345 千円	―
乗合タクシー（３区域）	5,532 千円	
スクールバス一般利用	―	―
合計	23,358 千円	12,497 千円

注４　高齢者運転免許証の自主返納者数
・近年の実績値により設定（H27：15 名、H28:8 名、H29：12 名、H30:15 名、R1：13 名）5 ヵ年で 63 名≒65 名
　　高齢者運転免許自主返納サポート事業の実績　R2：26 人、R3：31 人、R4：33 人

注５　乗合タクシー（３区域）などの新規利用登録者数
・北竜町総合計画（地域公共交通登録者数　2018 年度末 229 人→2023 年度末 240 人　5 ヵ年で 11 人増）

注６　分かりやすい自宅前送迎の案内
・現況値は平成 27 年度の乗合タクシーアンケート調査で、「十分把握できた」と回答した方の割合
・利用者のニーズ把握時において検証する

88P

基本目標（略称）	評価指標	取組み
（1）持続可能な地域公共交通等を確保・維持する	広域公共交通の維持	①広域公共交通の維持【継続】
	アクセス交通・町内公共交通の輸送人数等	②北竜町運営自家用有償運送の新設【新規】 ③乗合タクシーの運行維持【継続】 ④連絡施設間運行便の維持【継続】
	スクールバスの効率化	⑤スクールバス一般利用【廃止検討】
	自宅前送迎の予約情報処理による運行支援と予約情報の活用	⑥デマンド交通支援プログラムの維持・活用【継続】
（2）自家用車から公共交通への転換を促進する	高齢者運転免許証の自主返納者数	①高齢者運転免許証自主返納サポート事業の維持【継続】
	乗合タクシーなどの新規利用登録者数	②新規利用登録者の募集【継続】
（3）地域公共交通への愛着を創出する	利用者のニーズの把握と反映（意識調査の実施）	①利用者登録者への意識調査実施【継続】
	地域に親しまれる愛称の設定	②愛称の募集・設定【新規】
	分かりやすい自宅前送迎の案内	③利用案内パンフレットの作成【継続】

88P

基本目標（略称）	評価指標	取組み
（1）持続可能な地域公共交通等を確保・維持する	広域公共交通の維持	①広域公共交通の維持【継続】
	アクセス交通・町内公共交通の輸送人数等	②町営バス北竜妹背牛線の運行【変更】 ③乗合タクシーの運行維持【継続】 ④連絡施設間運行便の維持【継続】 ⑤自家用車への相乗り交通の研究・検討
	スクールバスの効率化	⑥スクールバス一般利用【廃止検討】
	自宅前送迎の予約情報処理による運行支援と予約情報の活用	⑦デマンド交通支援プログラムの維持・活用【継続】
（2）自家用車から公共交通への転換を促進する	高齢者運転免許証の自主返納者数	①高齢者運転免許証自主返納サポート事業の維持【継続】
	乗合タクシーなどの新規利用登録者数	②新規利用登録者の募集【継続】
（3）地域公共交通への愛着を創出する	利用者のニーズの把握と反映（意識調査の実施）	①利用者登録者への意識調査実施【継続】
	地域に親しまれる愛称の設定	②愛称の募集・設定【継続】
	分かりやすい自宅前送迎の案内	③利用案内パンフレットの作成【継続】

89P

（１）持続可能な地域公共交通等を確保・維持する

①広域公共交通の維持【継続】

1)概要

・北竜町地域公共交通と接続する広域公共交通（路線バス）は、空知中央バス深滝線、同（深川）北竜線及び沿岸バス・道北バス留萌旭川線となりますが、深滝線については、中央バス滝川北竜線の代替交通との接続により、当該バス路線の維持に貢献します。

・空知中央バス（深川）北竜線は、引き続き北竜町役場等を自宅前送迎の連絡施設として維持し、当該路線との接続を行いますが、輸送人数の減少により市町村単独補助路線となるため、沿線市町での負担について協議を行い、単独補助路線化以降も運行を維持する方向で調整を進めるものとします。

・交通事業者の意向等によって存続が危ぶまれる場合は本公共交通計画を見直し、アクセス交通を改めて検討する必要がありますが、その場合以下の案について検討することが考えられます。

1)　本計画で位置づけるアクセス交通（追分市街での乗継ぎ）により、滝川市や深川市への生活動線を確保する

2)　本計画で位置づけるアクセス交通を見直し、別途ＪＲ駅を有する妹背牛駅を結ぶアクセス交通を新たに位置づけることにより、滝川市や深川市への生活動線を確保する

3)　1)と2)を併せて確保する

4)　1)により滝川市、沿岸バス・道北バス留萌旭川線により深川市への生活動線を確保する

この場合、留萌旭川線については深川西高校へのアクセスについて協議することが必要である

・沿岸バス・道北バス留萌旭川線については、「セイコーマートへきすい店」と「碧水支え合いセンター」を自宅前送迎の連絡施設として位置づけるとともに、広報等で運行時刻等を案内することにより、利用者の確保に寄与していきます。

89P

（１）持続可能な地域公共交通等を確保・維持する

①広域公共交通の維持【継続】

1)概要

・町内公共交通と接続する広域公共交通は、JR函館本線、空知中央バス深滝線及び沿岸バス・道北バス留萌旭川線となり、特にJR函館本線、空知中央バス深滝線の利用増に貢献します。

・路線バスとしては、地域間幹線系統である空知中央バス深滝線と沿岸バス・道北バス留萌旭川線の維持・確保を推進します。

2)事業者

・空知中央バス(株)、沿岸バス(株)・道北バス(株)とします。

・自宅前送迎の連絡施設の位置づけや、路線バス時刻表の案内等は北竜町が行います。

3)財政的支援

・国、北海道、北竜町及びその他沿線市町とします。

90P

②北竜町運営自家用有償運送の新設【新規】

1)運行概要

・令和４年３月で廃止が予定されている中央バス滝川北竜線の代替路線として、碧水から雨竜町追分市街までを結ぶアクセス交通の内、乗車人数から乗合タクシーでは輸送できない場合は「北竜町運営自家用有償運送運行」、輸送できる場合は「乗合タクシー」として運行します。

・ここでは「北竜町運営自家用有償運送」について記載し、「乗合タクシー」は後述とします。

・北竜町運営自家用有償運送は、最終的には全便において自宅前送迎を目指しますが、運転手確保の課題があるため当初段階では、高校生の登下校に利用されている便（滝川北竜線2020年冬時刻便）を路線運行とし、他を自宅前送迎とします。

表　アクセス交通の種類（令和４年４月～）

ケース	交通事業者	輸送方法
・現滝川北竜線の運行時間帯（高校生の登下校に利用）	北竜町運営有償運送	路線運行
・他の時間帯で、利用人数が乗合タクシーの定員（４人）を上回る場合		自宅前送迎（デマンド運行）
・他の時間帯で、利用人数が乗合タクシーの定員（４人）に収まる場合	乗合タクシー	

表　アクセス交通の種類（目標：令和６年10月～）

2)事業者

・空知中央バス(株)、沿岸バス(株)・道北バス(株)とします。

・自宅前送迎の連絡施設の位置づけや、路線バス時刻表の案内等は北竜町が行います。

3)財政的支援

・国、北海道、北竜町及びその他沿線市町とします。

90P

②町営バス北竜妹背牛線の運行【変更】

1)運行概要

【町営バス北竜妹背牛線の必要性】

・令和4年3月で廃止した中央バス滝川北竜線の代替路線として、碧水から雨竜町追分市街までを結ぶ町営バス北竜追分線を運行しましたが、空知中央バス（深川）北竜線が令和6年3月で廃止予定のため、滝川市内に加え、深川市内の高校、病院、商業移設等へのアクセスが可能となるよう、町営バス北竜追分線から町営バス北竜妹背牛線にルート変更を行います。

【乗継ぎによる生活交通の確保】

・町営バス北竜妹背牛線は、滝川市方面がJR函館本線、深川市方面が空知中央バス深滝線との乗継により、通学、買物及び通院等の生活交通を確保する公共交通として運行します。

【JR妹背牛駅前、妹背牛（十字街）に加え北竜町のみのバス停留所の設置】

・起終点は碧水市街地からJR妹背牛駅前とし、妹背牛（十字街）に加え北竜町のみにバス停留所を設置します。

・将来的に、碧水市街地から美葉牛方面への延伸を検討します。

【定時定路線と予約定路線による運行】

・町営バス北竜追分線の便別の乗車人数から、主に高校通学に利用される便は「定時定路線」、一般の方の通院、買物等は「予約（不定期）定路線」により運

ケース	交通事業者	輸送方法
・現滝川北竜線の運行時間帯（高校生の登下校に利用）	北竜町運営有償運送	自宅前送迎（デマンド運行）
・他の時間帯で、利用人数が乗合タクシーの定員（４人）を上回る場合		
・他の時間帯で、利用人数が乗合タクシーの定員（４人）に収まる場合	乗合タクシー	

91P

・路線運行の内容は、現在の中央バス滝川北竜線の内、碧水から雨竜町追分市街までの区間を引き継ぐものとしますが、将来的には自宅前送迎に移行します。
・自宅前送迎の内容は現在の乗合タクシーと同様の内容とするが、深滝線との乗継ぎのために「追分市街」を連絡施設として加えます。
・路線運行、自宅前送迎とも雨竜町民の乗車を可能とし、雨竜町民の自宅前送迎は利用登録及び事前予約により、現在のバス停留所位置で乗降できるものとして運行します。

図　追加する連絡施設「追分市街（北竜方面）」
公衆トイレ付きの施設が整備済み
※「追分市街（滝川方面）」は雨竜町により
令和３年に整備予定

行を行います。

表　町営バス北竜妹背牛線

項　　目	定時便	不定期（予約）便	備考
往路（碧水市街⇒妹背牛駅前）	２便	２便	有償
復路（妹背牛駅前⇒碧水市街）	２便	１便	有償
合計	４便	３便	

削除

図　雨竜町内のバス停留所
（概ね待合施設が整備されている）

92P

図　アクセス交通（路線運行）運行路線図

91P

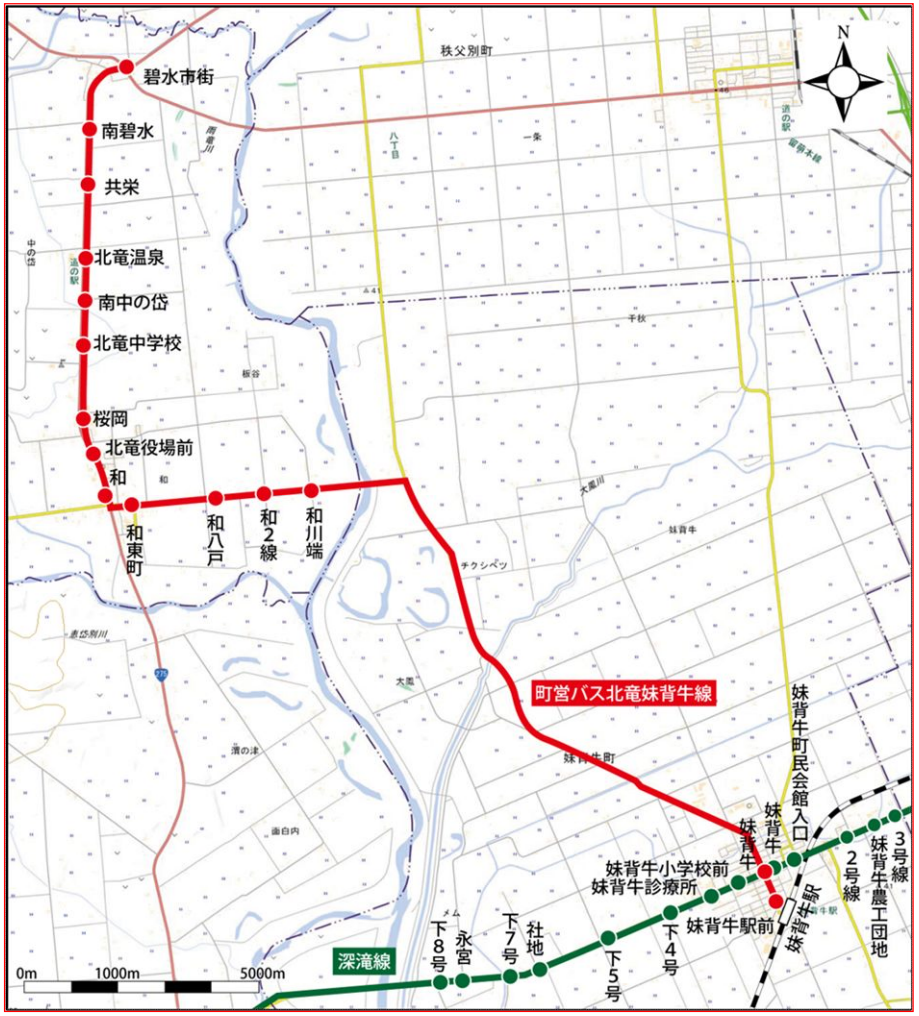
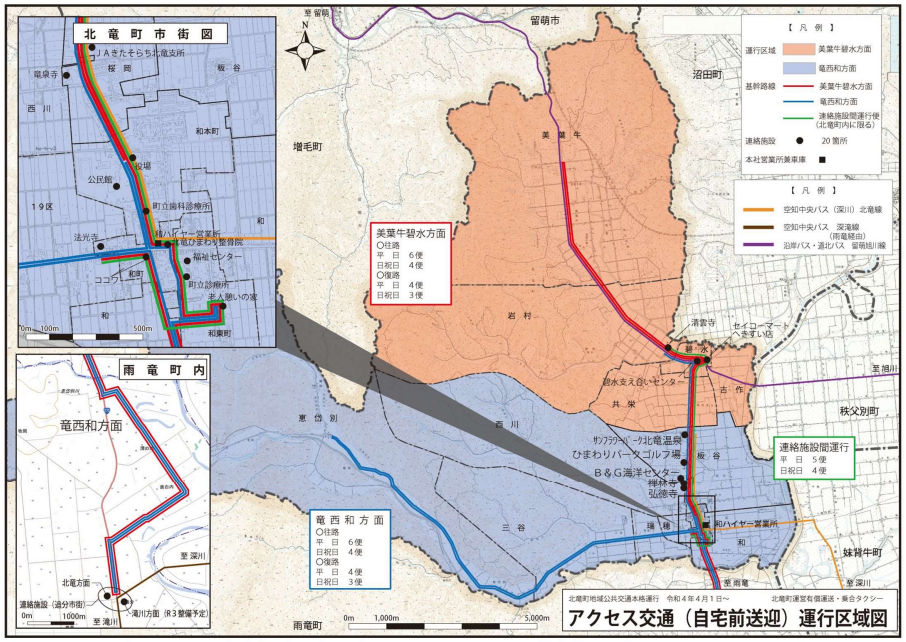


図　町営バス北竜妹背牛線運行路線図

93P



95P

2)運賃

・乗車料金については、乗合タクシーの収益率が低く、かつ平成27年度の乗合タクシー利用登録者アンケートでは、値上げした場合でも「利用回数は変わらない」との回答が多いため、現行料金の改定を行います。

・追分市街までは、１乗車当たり料金に加えて通学定期料金を設定します。料金は中央バス運賃を参考としますが、関係者等の意見を踏まえ最終的に決定していくものとします。

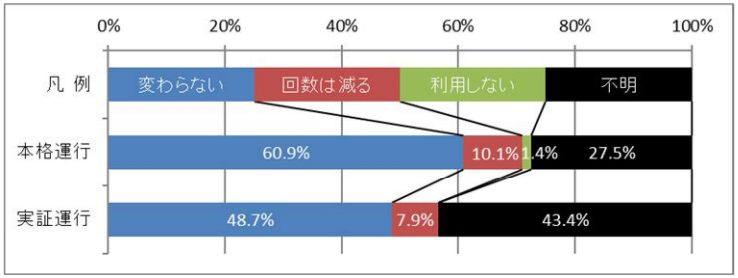


図　乗合タクシー料金を200円から300円にした場合の利用回数

出典：平成27年度利用登録者へのアンケート調査（実証運行はH26に実施したもの）

削除

92P

2)運賃

・乗車料金及び高校通学定期券については、町営バス北竜追分線の料金を踏襲し、かつ料金改定により以下のとおり定めることが考えられます。

表　町営バス北竜妹背牛線の料金（参考例）

項目	空知中央バス（深川）北竜線	町営バス北竜妹背牛線
○1 乗車当たり料金	北竜温泉　⇔　妹背牛 420 円	北竜町内 100 円（50 円） 北竜町⇔妹背牛町 200 円（100 円）

表　北竜町運営有償運送の料金（町内のみの利用）

項目	現行	改定案	備考
路線運行（１乗車）	100 円※	150 円	※スクールバス乗車料金
自宅前送迎（１乗車）	200 円※	300 円	※乗合タクシー乗車料金

表　北竜町運営有償運送料金の目安（北竜町⇔雨竜町）

項目	現行	想定
○１乗車当たり 路線運行 自宅前送迎	390円	・北竜町と雨竜町間は、路線運行料金を考慮して、北竜町内自宅前送迎よりも高い400円とすることが考えられる ・雨竜町内は北竜町内と同額の300円が考えられる
○１カ月通学定期 路線運行 自宅前送迎	滝川北竜線（北竜役場前⇔滝川駅前） 22,680円 深滝線（追分市街⇒滝川駅前） 18,000円 差し引き（北竜役場前⇔追分市街） 4,680円	・差し引き額から4,500円程度が考えられる。

※障がいをお持ちの方、介護認定を受けている方等については、別途減免措置を検討

○高校通学 １カ月通学定期	北竜温泉　⇔　深川西高前 19,440 円 妹背牛　⇔　深川西高前 10,440 円 差し引き（北竜温泉⇔妹背牛） 9,000 円	・4,500 円（3,150 円）
○高校通学 ３カ月通学定期	北竜温泉　⇔　深川西高前 55,400 円 妹背牛　⇔　深川西高前 29,750 円 差し引き（北竜温泉　⇔妹背牛） 25,650 円	・12,800 円（8,960 円）程度が考えられる。

※（金額）は、障がいをお持ちの方や介護認定を受けている方等の減免金額

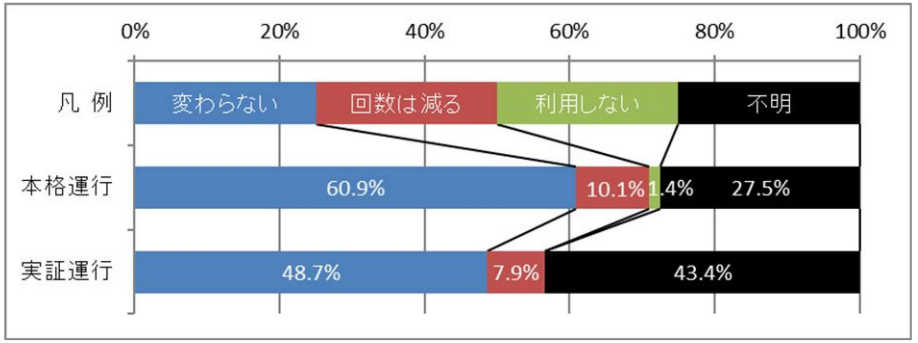


図　乗合タクシー料金を200円から300円にした場合の利用回数

出典：平成27年度利用登録者へのアンケート調査（実証運行はH26に実施したもの）

96P

3)財政的な支援

・運行費用から料金収入を差し引いた赤字額については、　国（フィーダー系統補助、特別交付税)、北竜町及び雨竜町による財政的な支援を検討します。

・雨竜町の負担については、例えば雨竜町内の町道を運行することによる走行距離の増加に伴う費用等を考慮して設定することが考えられます。

4)運行車両

・運行車両はフィーダー補助により、登下校時の高校生の送迎が可能なマイクロバス（20～30 人乗り）を確保します。また予備車は、サンフラワーパークホテルの送迎に使用している車両を想定します。

（省略）

表　町内交通事業者等

和ハイヤー(有)※、(株)北竜町振興公社、ＮＰＯ法人ひまわり等

※北竜町運営有償運送は乗合タクシーと調整を行いながら運行していく必要があるため、和ハイヤー(有)を中心に運行体制を構築する必要がある。

97P

③乗合タクシーの運行維持【継続】

1)概要

・ここではアクセス交通の自宅前送迎の内、「乗合タクシー」について記載するものとしますが、予約人数によって「乗合タクシー（セダン型車両)」と「北竜町運営自家用有償運送（マイクロバス)」のいずれかを選択するなど、「北竜町運営自家用有償運送」と調整を図りながら運行するものとします。

・乗合タクシーは現行と同じ運行方法とし、利用登録者宅と連絡施設間を直接輸送するものとします。

表　連絡施設リスト（北竜町運営有償運送（自宅前送迎)・乗合タクシー）

○全 20 箇所

01)福祉センター　02)町立診療所　03)老人憩いの家　04)ココア　05)町立歯科診療所
06)公民館　07)役場　08)サンフラワーパーク北竜温泉
09)ＪＡきたそらち北竜支所　10)セイコーマートへきすい店
11)Ｂ＆Ｇ海洋センター（プール）　12)北竜ひまわり整骨院
13)ひまわりパークゴルフ場　14)碧水支え合いセンター
15)禅林寺　16)弘徳寺　17)竜泉寺　18)法光寺　19)清雲寺
20)追分市街（新規）

93P

3)財政的な支援

・運行費用から料金収入を差し引いた赤字額については、JR 函館本線及び空知中央バス深川滝川線にアクセスする地域内フィーダー系統として、国に支援を要望します。

4)運行車両

・運行車両は車両減価償却費等国庫補助金により、登下校時の高校生の送迎が可能なマイクロバス（20～30人乗り）を確保します。また予備車は、サンフラワーパークホテルの送迎に使用している車両を想定します。

（省略）

表　町内交通事業者等

和ハイヤー(有)、(株)北竜町振興公社等

94P

③乗合タクシーの運行維持【継続】

1)概要

・乗合タクシーは現行と同じ運行方法とし、利用登録者宅と連絡施設間を直接輸送するものとします。

・運行方面は「美葉牛・碧水方面」、「竜西・和方面」とします。

表　連絡施設リスト

○全 18 箇所

01)福祉センター　02)町立診療所　03)ココワ　04)町立歯科診療所　05)公民館
06)役場　07)サンフラワーパーク北竜温泉　08)ＪＡきたそらち北竜支所
09)セイコーマートへきすい店　10)Ｂ＆Ｇ海洋センター（プール）
11)北竜ひまわり整骨院　12)ひまわりパークゴルフ場　13)碧水支え合いセンター
14)禅林寺　15)弘徳寺　16)竜泉寺　17)法光寺　18)清雲寺

98P

・乗合タクシーと北竜町運営有償運送と合わせた運行時間帯については、中央バス深滝線との乗継ぎを考えた最大限の便数を設定しますが、運行後に利用状況に応じて運行便数の再検討を行います。

表　アクセス交通の運行時間帯のイメージ（北竜町運営有償運送・乗合タクシー）

行き

往路便名	アクセス交通 碧水市街	アクセス交通 北竜役場前	アクセス交通 追分市街	乗継ぎ	深滝線 追分市街	深滝線 滝川駅前
①	7:05	7:11	7:21	→	7:24	8:05
②	7:40 ～ 8:10			→	8:14	8:55
					9:24	10:05
③	9:30 ～ 10:00			→	10:09	10:50
					11:09	11:50
④	11:30 ～ 12:00			→	12:09	12:50
					14:09	14:50
⑤	14:30 ～ 15:00			→	15:09	15:50
					16:24	17:05
⑥	16:30 ～ 17:00			→	17:24	18:05
					18:24	19:05
⑦	19:00 ～ 19:30			→	19:34	20:15

帰り

深滝線 滝川駅前	深滝線 追分市街	乗継ぎ	アクセス交通 追分市街	アクセス交通 北竜役場前	アクセス交通 碧水市街	復路便名
6:30	7:03					
7:15	7:48					
7:30	8:03	→	8:10 ～ 8:40			①
8:40	9:13					
10:00	10:33		10:40 ～ 11:00			②
11:00	11:33					
12:00	12:33	→	12:40 ～ 13:10			③
13:00	13:33					
14:45	15:18	→	15:20 ～15:50			④
15:45	16:18					
16:30	17:03	→	17:05	17:15	17:24	⑤
17:40	18:13					
19:20	19:53	→	19:55	20:05	20:14	⑥

10:00　日曜運休

路線運行（北竜町運営有償運送）（記載の停留所は主要なもの）

デマンド運行（北竜町運営有償運送、乗合タクシー）

※北竜町運営有償運送：マイクロバス

※乗合タクシー：和ハイヤー(有)車両

2)運賃

・前述の北竜町運営有償運送の内、自宅前送迎と同額とします。

3)財政的支援

・北竜町運営有償運送と同様に、国（フィーダー系統補助、特別交付税）、北竜町及び雨竜町による財政的な支援を検討します。

4)運行車両

・現行と同様に和ハイヤーが保有する車両を用いてハイヤー事業と併用するものとします。

5)事業者

・運行事業者は和ハイヤー(有)とします。

・運行は、ハイヤー業務との併用の関係で、「美葉牛・碧水方面」と「竜西・和方面」を交互に行います。

・運行時間帯については、「美葉牛・碧水方面」、「竜西・和方面」とも午前が往路（行き）2便、復路（帰り）1便、午後は復路（1便）を設定します。

表　運行便数（「美葉牛・碧水方面」、「竜西・和方面」）

項目	午前	午後
往路（行き）	2便	1便
復路（帰り）	―	1便
合計	2便	2便

※日曜祝日運休

2)運賃

・現行料金から運賃改定を行います。

表　乗合タクシー料金

項目	現行	改定
料金	200円（100円）	300円（150円）

3)財政的支援

・運行費用から料金収入を差し引いた赤字額については、沿岸バス・道北バス留萌旭川線の地域内フィーダー系統として、国に支援を要望します。

4)運行車両

・現行と同様にハイヤー事業と併用しながら、事業者が保有する車両を用いて輸送します。

5)事業者

・運行事業者は和ハイヤー(有)とします。

6) 自宅前送迎の事前予約の受付

・乗合タクシーの事業者は、北竜町運営有償運送の自宅前送迎と乗合タクシーの事前乗車の予約受付けを合わせて行い、予約人数から輸送車両の選択を行うとともに、後述のデマンド交通支援プログラムにより輸送計画を立案するものとします。

99P

④連絡施設間運行便の維持【継続】

1) 概要

・連絡施設間の輸送（連絡施設間運行便）については、現行の運行を継続します。
・対象とする連絡施設は、アクセス交通との重複を避けるために北竜町内の施設設のみとします。
・運行便数及び時間帯については、アクセス交通の運行時間帯を考慮して、以下のとおり再設定しますが、今後の利用状況に応じて再検討を行います。

表　連絡施設間運行便の運行時間帯のイメージ

便名	運行時間帯	備　考
①	9:00 ～ 9:30	日曜運休
②	11:00 ～ 11:30	
③	13:10 ～ 13:40	
④	14:00 ～ 14:30	
⑤	16:00 ～ 16:30	

2) 事業者

・運行事業者は和ハイヤー(有)とします。

6) 自宅前送迎の事前予約の受付

・乗合タクシーの事業者は、事前乗車の予約受付けを合わせて行い、後述のデマンド交通支援プログラムにより輸送計画を立案して運行を行うものとします。

96P

④連絡施設間運行便の維持【継続】

1) 概要

・連絡施設間の輸送（連絡施設間運行便）を引き続き行います。
・対象とする連絡施設は、乗合タクシーで設定した 18 施設とします。
・運行時間帯については、乗合タクシー運行の間にて午前、午後それぞれ１便を運行します。

表　連絡施設間運行便数

項目	午前	午後
連絡施設間運行便	１便	１便

2) 運賃

・現行料金から運賃改定を行います。

表　乗合タクシー料金

項目	現行	改定
料金	100 円（50 円）	150 円（100 円）

3) 財政的支援

・運行費用から料金収入を差し引いた赤字額については、沿岸バス・道北バス留萌旭川線の地域内フィーダー系統として、国に支援を要望します。

4) 運行車両

・現行と同様に和ハイヤーが保有する車両を用いてハイヤー事業と併用します。

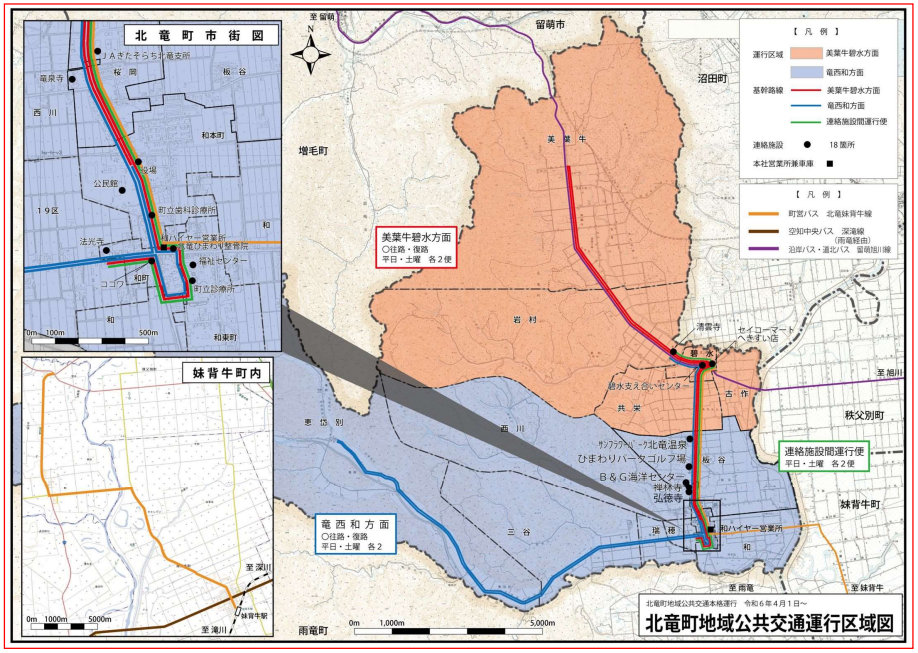
5) 事業者

・運行事業者は和ハイヤー(有)とします。

6)自宅前送迎の事前予約の受付

・乗合タクシーの事業者は、事前乗車の予約受付けを合わせて行い、後述のデマンド交通支援プログラムにより輸送計画を立案して運行を行うものとします。

97P



99P

⑤自家用車への相乗り交通の研究・検討

1)概要

・滝川市や深川市に自家用車を用いて通勤目的や買物目的で移動する住民が多い現状と、町内交通事業者における運転手不足の状況を踏まえ、自家用車により移動することができない住民と自家用車で移動する住民のマッチングを行い、ガソリン代程度で相乗りするシステムの研究・検討を行います。

2)事業者

・北竜町により乗せる側と乗る側の住民へ、Web を用いてのアンケート調査の実施を検討し、実現性の検証を行います。

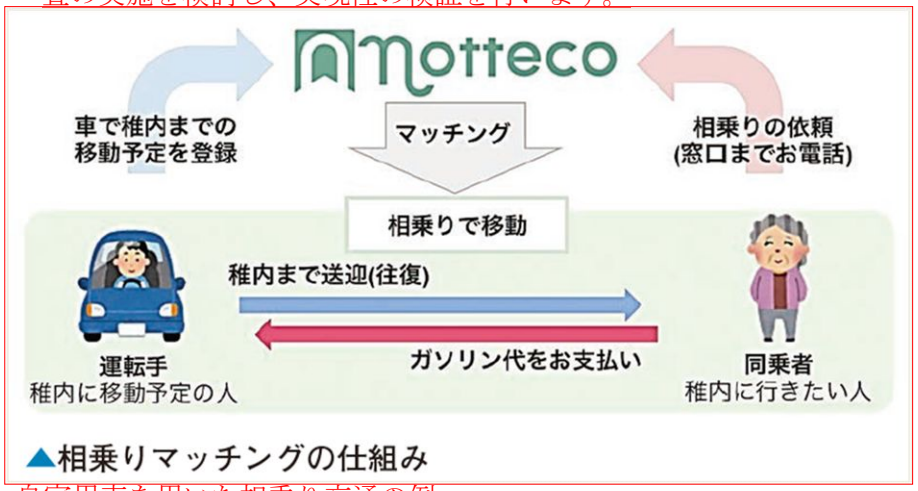


図　自家用車を用いた相乗り交通の例

資料：天塩町

100P

⑥スクールバス一般利用の取りやめ【廃止検討】

1)概要

・スクールバスへの一般利用は平成 27 年度から有償により行ってきましたが、アクセス交通の運転手を確保することを目的に、スクールバスの合理化を図るため、路線数の変更を検討するとともに、児童生徒の輸送に必要な時間が長くなるため、一般利用の取りやめを検討します。

・乗合タクシーの輸送人数は平成 30 年度をピークに減少しているため、

100P

⑤スクールバス一般利用の取りやめ【廃止検討】

1)概要

・スクールバスへの一般利用は平成 27 年度から有償により行ってきましたが、アクセス交通の運転手を確保することを目的に、スクールバスの合理化を図るため、路線数の変更を検討するとともに、児童生徒の輸送に必要な時間が長くなるため、一般利用の取りやめを検討します。

・乗合タクシーの輸送人数は平成 30 年度をピークに減少しているため、一般利用の取りやめはアクセス交通運行開始と同時期に行いますが、ス

クールバス路線の２路線化は児童生徒保護者への説明に要する期間等を考慮して実施時期を設定します。
・スクールバス一般利用を取りやめることを受け、一般利用はアクセス交通（北竜町運営有償運送と乗合タクシー）に集約化することとなります。このことによりアクセス交通の輸送人数の確保を図り、事業の収益率を高めるものとします。

表　スクールバス２路線化と一般利用の取りやめ時期（目標）

スクールバスの一般利用の取りやめ時期：令和４年３月末 ス ク ー ル バ ス 路 線 の ２ 路 線 化：令和６年 10 月～　（案）

2)事業者
・事業者は北竜町とするが、町内交通事業者等の協力を得ながら運行するものとします。

表　町内交通事業者等

(株)ひまわり観光、ＮＰＯ法人ひまわり等

101P
⑥デマンド交通支援プログラムの維持・活用

一般利用の取りやめはアクセス交通運行開始と同時期に行いますが、スクールバス路線の２路線化は児童生徒保護者への説明に要する期間等を考慮して実施時期を設定します。
・スクールバス一般利用を取りやめることを受け、一般利用はアクセス交通（北竜町運営有償運送と乗合タクシー）に集約化することとなります。このことによりアクセス交通の輸送人数の確保を図り、事業の収益率を高めるものとします。

削除

2)事業者
・事業者は北竜町としますが、町内交通事業者等の協力を得ながら運行します。

表　町内交通事業者等

（株）北竜町振興公社

101P
⑦デマンド交通支援プログラムの維持・活用

105P

５－４．計画の進行管理

（１）取組みの期間

本計画における個々の取組みの期間は、以下に示すとおりです。

取組み	2021年度 R３	2022年度 R４	2023年度 R５	2024年度 R６	2025年度 R７
（１）持続可能な地域公共交通等を確保・維持する					
①広域公共交通の維持【継続】	維持				
②北竜町運営自家用有償運送の新設【新規】	準備	一部路線運行		全便自宅前送迎	
③乗合タクシーの運行維持【継続】	現行の運行	本運行計画			
④連絡施設間運行便の維持【継続】	現行の運行	本運行計画			
⑤スクールバス一般利用【廃止検討】	現行の運行	一般利用とりやめ		２路線化	
⑥デマンド交通支援プログラムの維持・活用【継続】	修正・活用				
（２）自家用車から公共交通への転換を促進する					
①高齢者運転免許証自主返納サポート事業の維持【継続】	維持				
②新規利用登録者の募集【継続】	募集				
（３）地域公共交通への愛着を創出する					
①利用者登録者へ	－		実施	－	

105P

５－４．計画の進行管理

（１）取組みの期間

本計画における個々の取組みの期間は、以下に示すとおりです。

取組み	2021年度 R３	2022年度 R４	2023年度 R５	2024年度 R６	2025年度 R７
（１）持続可能な地域公共交通等を確保・維持する					
①広域公共交通の維持【継続】	維持				
②町営バス北竜妹背牛線の運行【変更】	準備	町営バス北竜追分線		町営バス 北竜妹背牛線	
③乗合タクシーの運行維持【継続】	現行の運行	本運行計画		運行改定	
④連絡施設間運行便の維持【継続】	現行の運行	本運行計画		運行改定	
⑤スクールバス一般利用【廃止検討】	現行の運行				２路線化等
⑥デマンド交通支援プログラムの維持・活用【継続】	修正・活用				
（２）自家用車から公共交通への転換を促進する					
①高齢者運転免許証自主返納サポート事業の維持【継続】	維持				
②新規利用登録者の募集【継続】	募集				
（３）地域公共交通への愛着を創出する					
①利用者登録者へ	－		実施	－	

の意識調査実施【継続】				
②愛称の募集・設定【新規】	募集	設定		
③利用案内パンフレットの作成【継続】	―	改定（一部路線運行）		改定（全便自宅前送迎）

の意識調査実施【継続】			
②愛称の募集・設定【新規】	募集	設定	
③利用案内パンフレットの作成【継続】	―	必要に応じて改定	